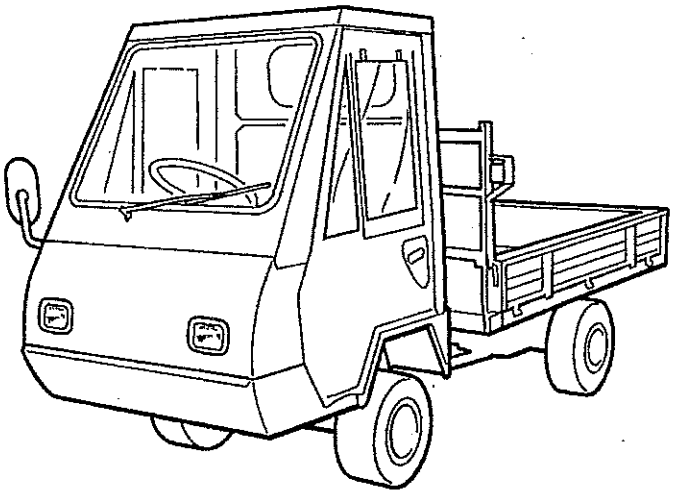
CANYCOM

小型特殊自動車

ELL501

取扱説明書



⚠ 警　告

この説明書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。

この説明書は、本製品の運転または保守・点検を行う場合、いつでも調べられるように大切に保管してください。

3707 5012 001

株式会社 筑水キャニコム
〒839-1396　福岡県うきは市吉井町福益90-1
TEL (0943)75-2195 (代) FAX (0943)75-4396

ユーザーの皆様へ

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
ご使用になる前に、この「取扱説明書」をよくお読みいただいて、正しい取り扱いをしてください。

⚠警　告

本製品には、潜在する危険があることを知らなければなりません。したがって、本製品の運転および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。

⚠警　告

本製品を改造して使用しないでください。また、本体の安全カバー等を取外して運転しないでください。重大な事故の原因となります。

注　記

本製品で公道を走行する場合、市町村役場に届け出てナンバープレートの交付を受けなければなりません。(交付申請の方法については、本書第11章の「小型特殊自動車登録申請の手引き」を参照してください)
なお、公道運転時には、小型特殊または普通自動車免許証の携帯が必要です。また本製品は、道路交通法により、積載量は500kgまでと限定されていますので、過積載をして走行しないでください。

目　　次

1. はじめに 1

1.1 本書の目的について 1
1.2 本書の構成について 1
1.3 本書の警告用語について 2
1.4 本製品に貼付してある警告ラベルについて 2

2. 保証とアフターサービスについて 3

3. 安全運転・作業のための心得 4

4. 各部の名称とはたらき 8

5. 製品仕様 10

5.1 本製品の仕様 10
5.2 工具袋明細 11

6. 運転と操作 12

6.1 運転前の準備 12
6.1.1 燃料の給油 12
6.1.2 燃料の供給 12
6.1.3 エンジンオイル量の点検と補給 13
6.2 始動のしかた 14
6.3 運転のしかた 16
6.4 停止のしかた 18
6.5 ダンプ操作 19

7 保守（お手入れ） 21

7.1 定期点検表 21
7.2 給油、給水、給脂、注油一覧表 24
7.3 消耗品（交換部品）一覧表 24
7.4 給油 25
7.4.1 エンジンオイル 25
7.4.2 トランスミッションオイル 26
7.4.3 ディファレンシャル（デフ）オイル 27
7.5 給脂・注油 28
7.5.1 給脂 28
7.5.2 注油 28
7.6 給水 29
7.6.1 バッテリ液 29
7.7 清掃 31
7.7.1 エアクリーナエレメント 31
7.7.2 点火プラグ 31
7.7.3 フューエルコック（フューエルフィルタ） 32
7.8 調整 33
7.8.1 Vベルト 33
7.8.2 クラッチ 33
7.8.3 ベルトストッパ 34
7.8.4 ブレーキ 34
7.8.5 タイヤの空気圧 35
7.9 使用後のお手入れ 36

8. 格納（長期保管） 37

8.1 本機（車両） 37
8.2 バッテリ 37
8.3 エンジン 38
8.3.1 フューエルコック 38
8.3.2 エアクリーナエレメントの清掃 38
8.3.3 エンジンオイルの交換 38

9. 不具合発生時の処置 39

9.1 不具合診断表 39

10. 本機の移送および本機での移送 43

10.1 本機の移送 43
10.2 本機での移送 43

11. 小型特殊自動車登録申請の手引き 44

＜保証書＞

本書の巻末に添付
※ 本機の取扱説明を受けた後に、受領証と共にお受け取りください。

＜付 録＞

「エンジン取扱説明書」（工具袋に同封）
※ 本書と併せて必ずお読みください。

1. はじめに

1.1 本書の目的について

本書の目的は、本製品について、正しい運転操作および保守・点検方法を知っていただくために詳しい情報を提供することです。
また、本書は、はじめてこの製品を使用される方を対象として制作しています。

1.2 本書の構成について

本書では以下の章に分けて情報を記載しています。

1．はじめに

この章では、本書の目的、構成および本書で使用している警告用語について説明しています。また、本製品に貼付してある警告ラベルについても記載しています。

2．保証とアフターサービスについて

この章では、本製品の保証およびアフターサービスに関する事項を記載しています。

3．安全運転・作業のための心得

この章では、運転時または作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。

4．各部の名称とはたらき

この章では、各部の名称とはたらきについて説明しています。

5．製品仕様

この章では、本製品の仕様について記載しています。また、工具袋の明細についても記載しています。

6．運転と操作

この章では、運転前の準備、運転手順および操作方法について説明しています。

7．保守（お手入れ）

この章では、定期点検、給油、給脂、注油、給水、清掃、調整および使用後のお手入れに関する情報を記載しています。

8．格納（長期保管）

この章では、格納（長期保管）に関する情報を記載しています。

9．不具合発生時の処置

この章では、不具合が発生した場合の処置について記載しています。

10．本機の移送および本機での移送

この章では、本機を移送する場合の方法と注意事項について説明しています。
また、本機に他の機械を積んで移送する場合の注意事項についても説明しています。

11．小型特殊自動車登録申請の手引き

この章では、小型特殊自動車登録申請に関する情報を記載しています。

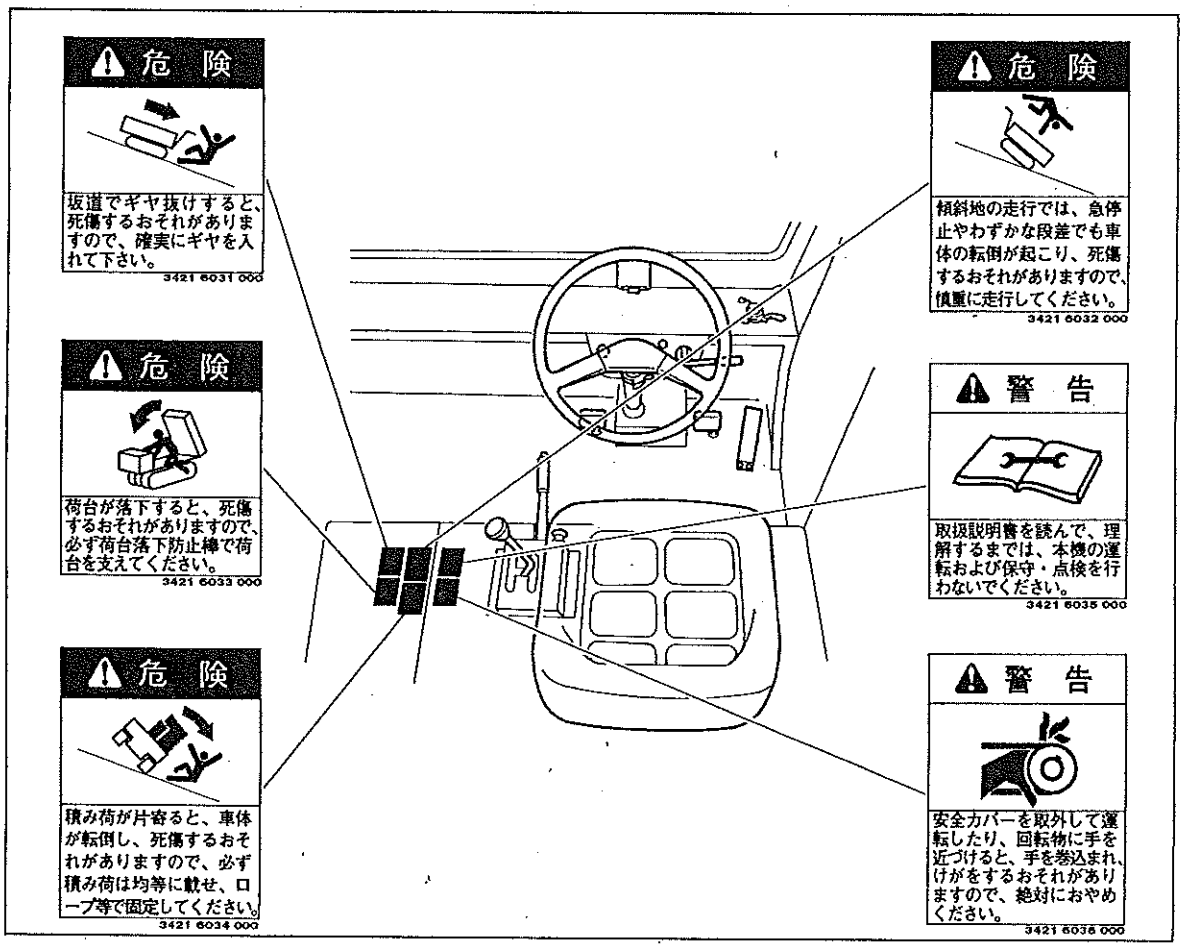
1.3 本書の警告用語について

本書では、危険度の高さ（または事故の大きさ）にしたがって、警告用語を次の４段階に分類しています。以下の警告用語がもつ意味を理解し、本書の内容（指示）に従ってください。

警告用語	意　味
⚠危　険	差し迫った危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う場合に使用されます。
⚠警　告	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う可能性のある場合に使用されます。
⚠注　意	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、中・軽傷を負う場合に使用されます。また、本製品に物的損害が発生する場合にも使用されます。
注　記	とくに注意を促したり、強調したい情報について使用されます。

1.4 本製品に貼付してある警告ラベルについて

本製品には下記の警告ラベルが貼付してあります。はがれたり、見えにくくなった場合には、ラベル下の部品番号にて販売店へ注文し、新たに貼付してください。



2. 保証とアフターサービスについて

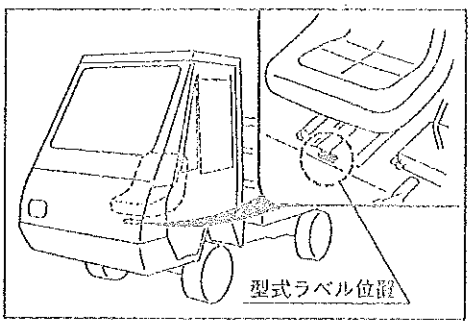
保証について

当社は本製品について、「保証書」の内容に基づいて保証をいたします。詳しくは本書巻末に添付の「保証書」を参照してください。

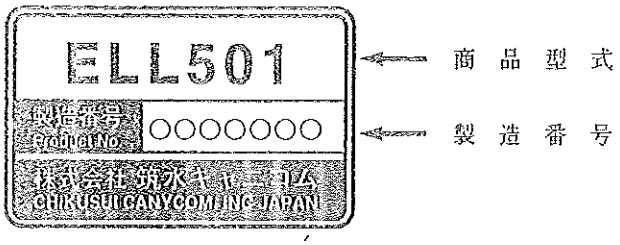
アフターサービスについて

ご使用中の不具合、ご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた販売店または当社センターにお気軽にご相談ください。
その際、型式ラベルに記載の商品型式、製造番号および搭載エンジンのメーカー名、型式名を併せてご連絡ください。(搭載エンジンのメーカー名および型式名については、本書の第５章「製品仕様」を参照してください。☞10ページ)

<型式ラベル位置>



<型式ラベル>

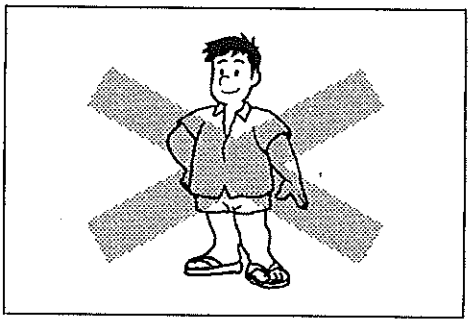


補修用部品の供給年限（期間）について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打切り後７年とします。

3. 安全運転・作業のための心得

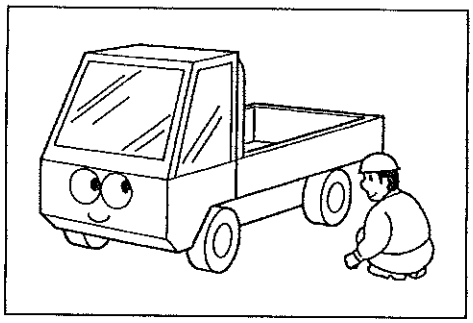
この章では、運転時または作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。本章以外で記載している各章の安全事項についても必ず従い、安全運転、安全作業を心掛けてください。



運転前の心得

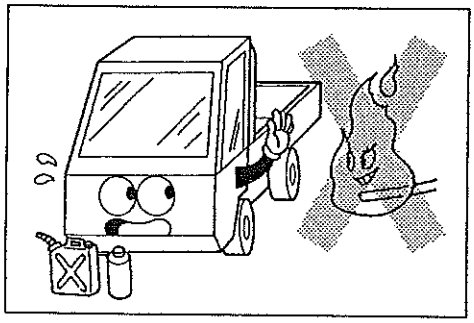
⚠ 正しい服装の励行

運転および作業にふさわしい服装を心掛け、軽装やサンダル履き等で運転や作業をしないでください。



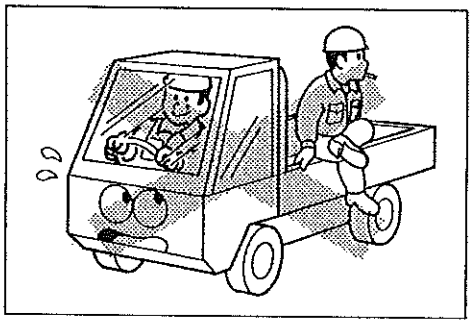
⚠ 始業点検の励行

運転の前に始業点検を必ず励行し、異常箇所は直ちに補修してください。



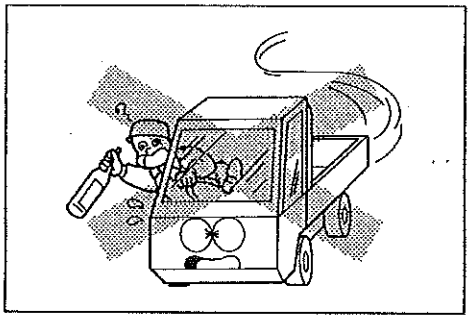
⚠ 火気厳禁

燃料、油脂の取扱い時は、絶対に火気（タバコの火など）を近付けないでください。また、バッテリの充電中やエンジンの整備時にも火気には十分注意して作業をしてください。



⚠ 同乗禁止

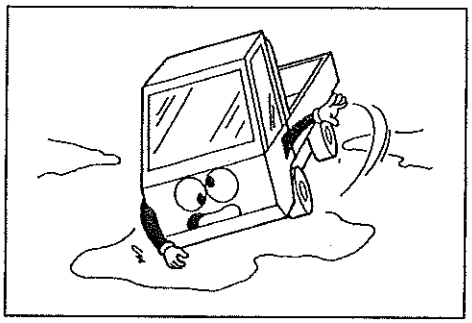
本製品は一人乗りです。同乗者を伴う運転は、重心の移動等が起こり大変危険です。運転者以外は絶対に乗せないでください。



⚠ 無謀運転禁止

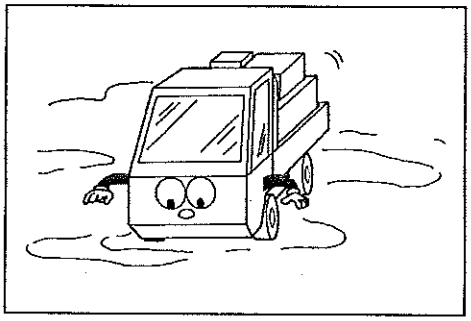
飲酒をして運転したり、体調不良時に無理に運転をすると大変危険です。絶対におやめください。
また、本製品の運転に適さない若年者の運転も絶対におやめください。

走行時の心得



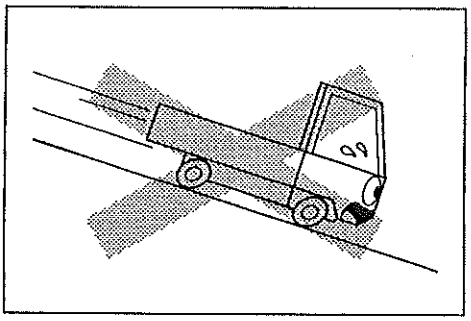
⚠ 急発進、急加速、急旋回、急ブレーキの禁止

急発進、急加速、急旋回および急ブレーキは避け、安全運転を心掛けてください。発進（特に後進時）の前には必ず周囲の安全を確認し、軟弱な地盤やぬれた路面での急旋回および急停車はスリップや転倒を招くおそれがあり危険ですので、絶対にしないでください。



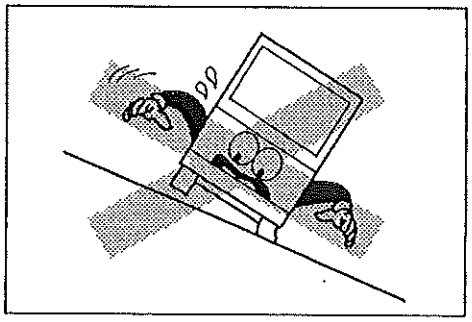
⚠ 安全速度遵守

走行時は、走行路の勾配、路面の状態および積載量に応じた安全速度で走行してください。
また公道を走行する場合は、交通状況に応じた適切な速度で走行してください。



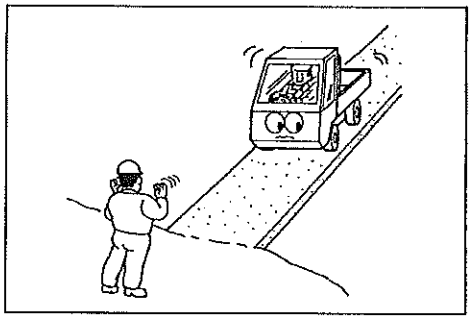
⚠ 下り坂ではエンジンブレーキを

下り坂の前では、一旦停止した後、変速レバーを低速位置に入れ、エンジンブレーキを必ず使用して減速を行ってください。フットブレーキを使用しすぎると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあり危険です。



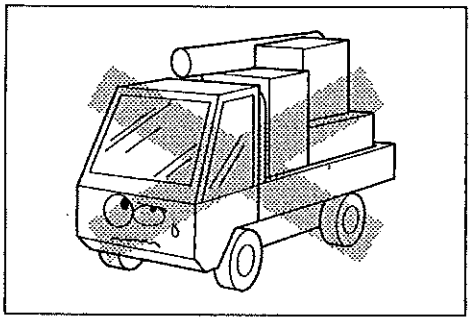
⚠ 斜面での横断禁止

傾斜地ではまっすぐ昇り降りしてください。斜面を横断すると、転倒のおそれがあり危険です。



⚠ 危険な場所では誘導者の指示に従う

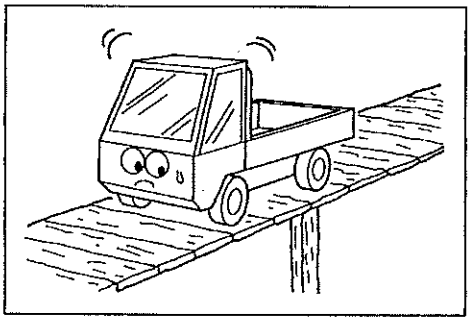
見通しの悪い場所や幅員の狭い道、傾斜や起伏の激しい道では誘導者の指示に従い、安全確認を十分行ってから走行してください。



積載時の心得

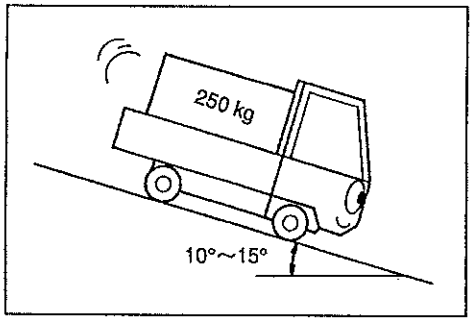
⚠ 過積載禁止

本製品の仕様で規定されている最大作業能力を超える積載はしないでください。本機は道路交通法により、積載量は500kgまでと限定されています。



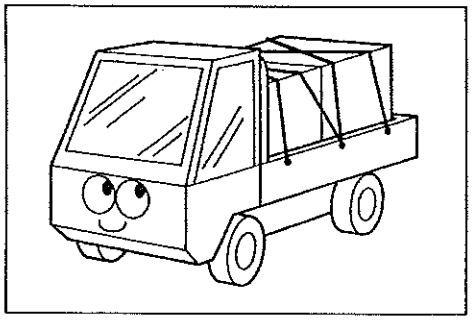
⚠ 制限重量に注意

木橋等を渡る時は、本製品の機械重量と積載量および運転者の体重の総重量が、木橋等の制限重量を超えないことを確認し、一定速度で慎重に通過してください。



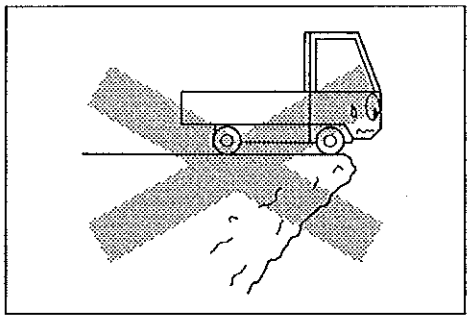
⚠ 傾斜地での積載量に注意

10°～15°の傾斜地では、積載量を250kg以下にして走行してください。15°を超える急傾斜地では、本製品をなるべく使用しないでください。やむを得ず使用する場合は、空車状態で運転をしてください。



⚠ 積み荷は正しく載せる

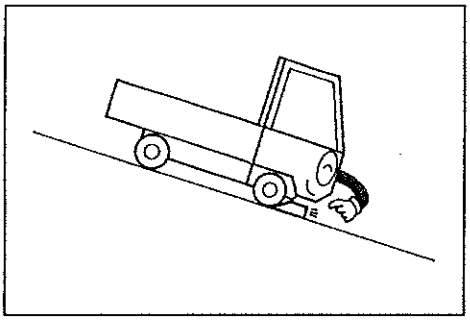
積み荷は偏荷重にならないよう、荷台に均一に載せ、ロープで固定するよう心掛けてください。また、積み荷の高さに注意し、視界を確保するよう注意してください。



駐車時の心得

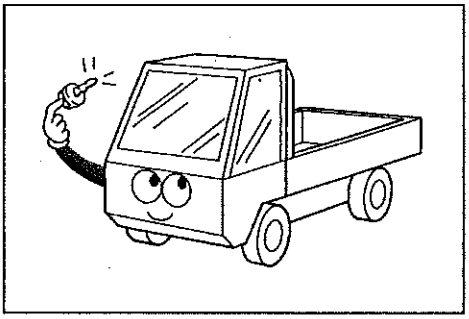
⚠ 危険な場所での駐停車禁止

駐停車の際は足場のよい平坦地に車体を止め、危険な場所での駐停車はしないでください。



⚠ 坂道での輪止め励行

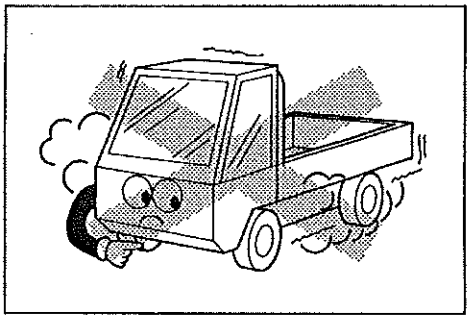
坂道での駐車は避けてください。やむなく坂道で駐車するときは、駐車ブレーキを確実にかけ、変速ギヤを前進または後進１速に入れた後、輪止めをしてください。



⚠ 駐車時の安全確認

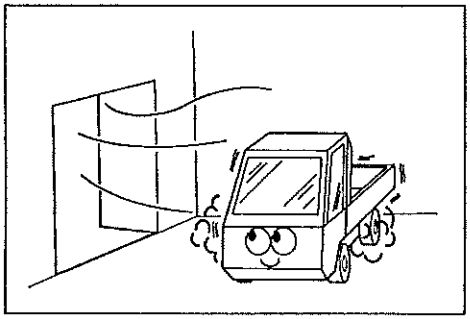
駐車時は、駐車ブレーキを必ずかけ、エンジン停止を励行してください。
また、エンジン停止中は、バッテリ上がりの原因となりますので、ランプ類の使用は避けてください。なお車から離れるときは、キーを忘れずに抜いてください。

整備時の心得



⚠ エンジン回転中の整備禁止

エンジン回転中は整備を行わないでください。
必ずエンジンを停止してから整備をしてください。

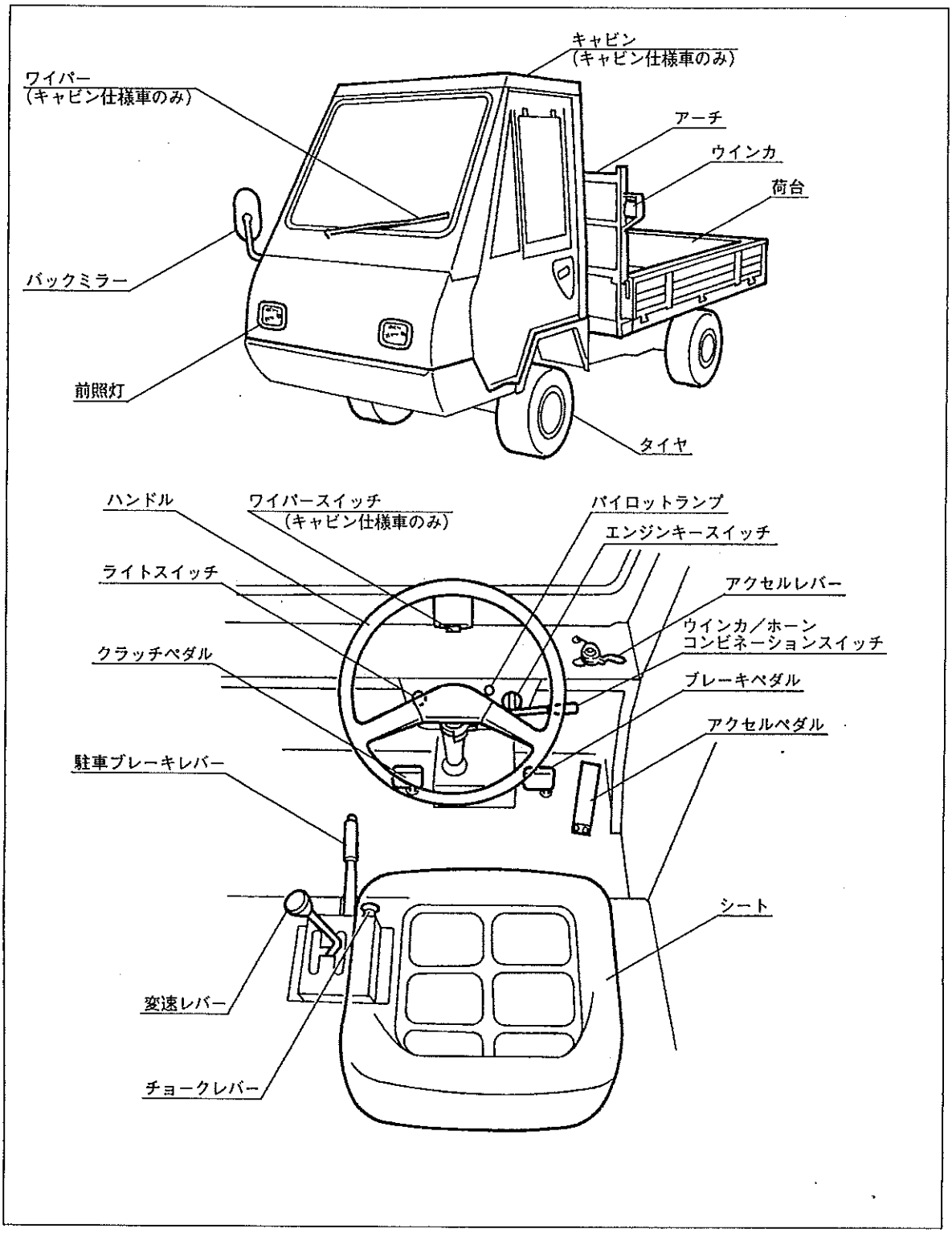


⚠ 換気に注意

室内でエンジンを運転させる時は、排気ガスによる中毒防止のため、換気をよくしてから作業を行ってください。

4. 各部の名称とはたらき

各部の名称



各部のはたらき

- 変速レバー ..... 走行速度の選択に使用します。
  変速はクラッチペダルを踏み込み、車体が停止した状態で行ってください。
- アクセルペダル ..... エンジン回転数の増減を行います。
- アクセルレバー ..... エンジン回転数の増減を行い、一定回転数を保持します。
- クラッチペダル ..... エンジンからトランスミッションへの動力を断続させます。
  クラッチペダルを踏み込むとクラッチが「切」の状態になります。
- ブレーキペダル ..... 車体の停止、または減速を行う時に使用します。
- 駐車ブレーキレバー ..... 車体を確実に駐車させます。
  レバーを引くとブレーキがかかります。解除する時は、レバーを軽く引き上げ先端のボタンを押して下へ戻します。
- ライトスイッチ ..... スイッチを引くと前照灯が点灯します。
- エンジンキースイッチ ..... エンジンを始動および停止させます。
- ウインカ／ホーン コンビネーションスイッチ ..... レバーを前後方向に操作するとウインカが点滅します。左折の場合はレバーを前に、右折の場合はレバーを後ろにします。
  また、レバーを手前に引くとホーンが鳴ります。
- パイロットランプ ..... ウインカと連動してランプが点滅します。
- チョークレバー ..... レバーを引くとチョーク弁が閉じ、戻すと開きます。エンジン始動時に引っ張り、始動後戻します。
- ワイパースイッチ ..... 雨天時、ワイパーを作動させるのに使用します。
  （キャビン仕様車のみ）

5. 製品仕様

5.1 本製品の仕様

> 注　記
>
> 本製品の仕様を理解した上で、正しく本製品を使用してください。

名称・型式				ELL501	
				キャビンなし	キャビン付き
機械重量			kg	390	430
最大作業能力			kg	500	
機械寸法	全長		mm	3,370	
	全幅		mm	1,210	
	全高		mm	1,280	1,680
	軸距（ホイールベース）		mm	1,670	
	輪距（トレッド）		mm	880（前後）	
	最低地上高		mm	120	
	床面高さ		mm	550	
荷箱寸法	荷箱内側寸法	長さ	mm	1,740	
		幅	mm	1,040	
		高さ	mm	230	
エンジン	名称			クボタ GS230	
	形式			空冷4サイクルSVガソリン	
	シリンダ（内径×行程）		mm	73.0×54.0	
	総排気量		cc	226	
	最大出力		PS/rpm	5.8/2000	
	最大トルク		kg·m/rpm	2.25/2200	
	始動方式			セルフスタータ式	
	使用燃料			ガソリン	
	燃料消費率		g/PS·h	290	
	燃料タンク容量		ℓ	17	
	潤滑油容量		ℓ	0.6	
	バッテリ形式			26A19R	
	バッテリ容量		V/AH	12/21	
	点火方式			電子点火	
	点火プラグ品番			BP4HS-10	

名称・型式					ELL501	
					キャビンなし	キャビン付き
走行性能	走行速度	前進	1速	km/h	4.0	
			2速	km/h	7.7	
			3速	km/h	14.1	
		後進	1速	km/h	4.0	
	最小回転半径			m	3.6	
	登坂能力			度	25	
トランスミッション油量				ℓ	2.7	
ディファレンシャル(デフ)油量				ℓ	0.7	
動力伝達装置	クラッチ形式				ベルトテンション方式	
	主変速形式				ギヤスライド式	
	操向装置形式				車体屈折	
	ブレーキ形式				内拡式ブレーキ	
	タイヤ				17×8.00−8 4PR	
ダンプ方式					リヤダンプ(手動)	
荷台形式					箱型三方開き	

※この仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

5.2 工具袋明細

No.	部品名	個数	備考
1	取扱説明書(本書)	1	
2	エンジン取扱説明書	1	
3	タイヤレンチ	1	タイヤ脱着用
4	エンジン工具	1式	

6. 運転と操作

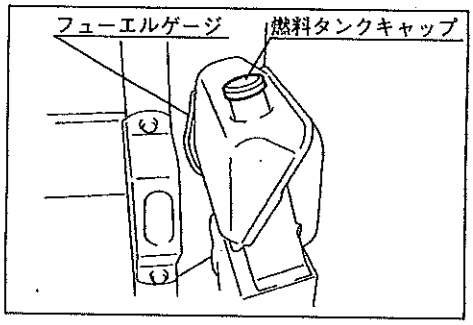
- 本章を読む前に第3章「安全運転・作業のための心得」(☞4ページ～7ページ) を必ずお読み下さい。
- 運転および操作については、必ず本章の指示に従い、自己判断による見切り操作は絶対にしないでください。

6.1 運転前の準備

6.1.1 燃料の給油

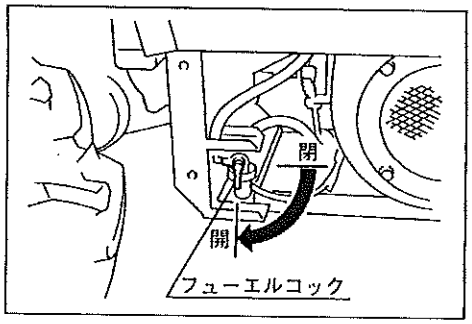
⚠危険

- **給油の際は火気（タバコの火など）を絶対に燃料およびエンジンに近付けないでください。引火の原因となります。**
- **給油は必ずエンジンを停止した状態で行ってください。**
- **エンジン停止直後はエンジンが高温になっているため、給油の際に燃料注入口から燃料がこぼれないよう十分注意してください。こぼれた際には速やかにふき取ってください。**



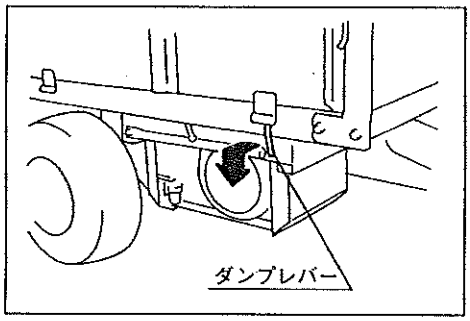
1. フューエルゲージを目視点検し、燃料が不足している場合は、燃料タンクキャップを開け、燃料を補給します。

   使用燃料：ガソリン
   燃料タンク容量：17ℓ



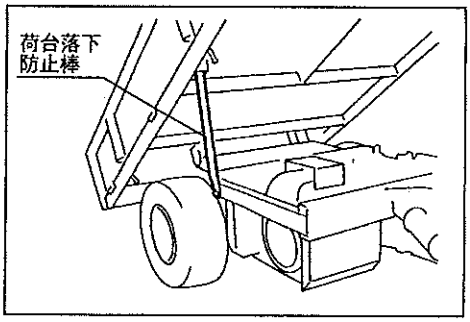
6.1.2 燃料の供給

1. フューエルコックを「閉」から「開」の位置にし、エンジンへの燃料の供給を開始します。

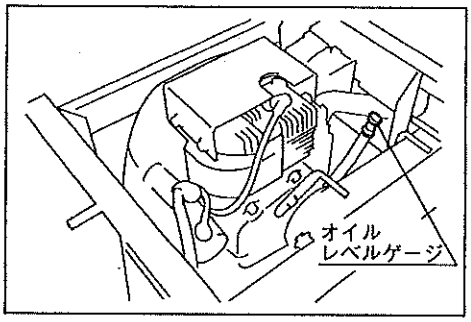


6.1.3 エンジンオイル量の点検と補給

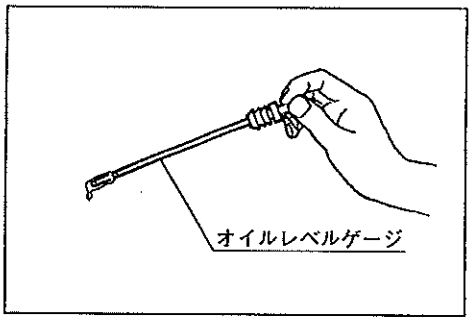
1. ダンプレバーを手前に引き、荷台のロックを解除します。



2. 荷台を持ち上げ、荷台落下防止棒で荷台を確実に支えます。



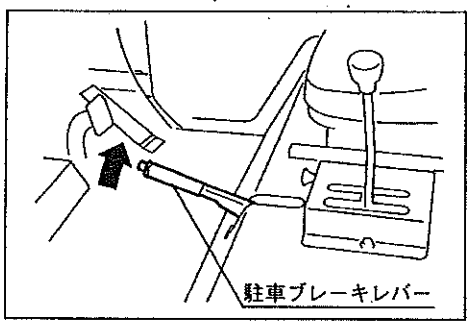
3. オイルレベルゲージを取外します。



4. エンジンオイル量を点検し、規定量にない場合はエンジンオイルを補給します。

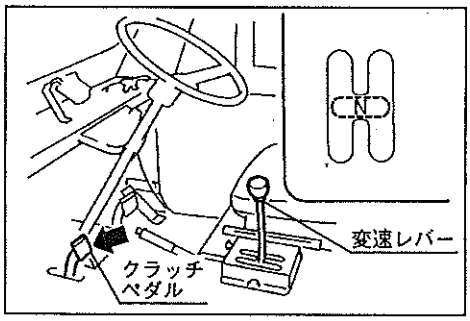
使用オイル：☞24ページ

エンジンオイル量：
オイルレベルゲージの「F」と「L」の刻み線間
（上限「F」以上は入れないでください。）

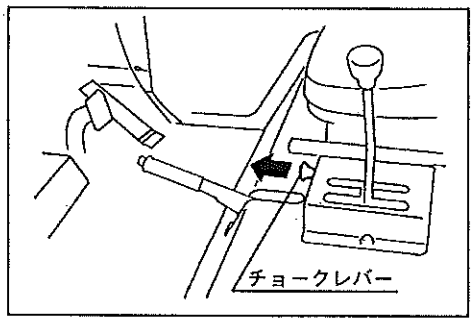


6.2 始動のしかた

1. 駐車ブレーキがかかっていることを確認します。



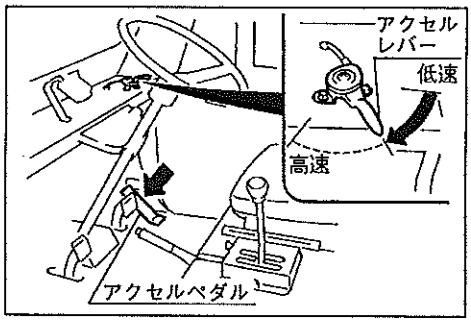
2. クラッチペダルを踏み込み、変速レバーを「N（ニュートラル）」の位置にします。



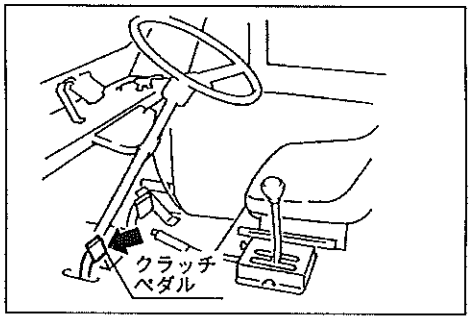
3. チョークレバーを引っ張り、「全閉（N）」の位置にします。

注　記

エンジンが暖まっている時は、チョークレバーを引っ張る必要はありません。



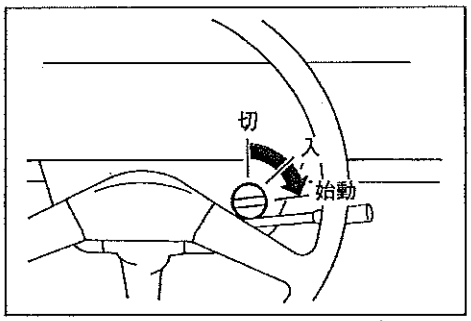
4. アクセルペダルを軽く踏み込むか、またはアクセルレバーを軽く引いて「低速」と「高速」の中間位置にします。



5. クラッチペダルをいっぱいに踏み込みます。

注　記

本機は始動安全装置を装備しているため、クラッチペダルを踏み込まないと、エンジンは始動しません。



6. エンジンキーを差し込み、「始動」位置まで回し、エンジンを始動させます。

7. エンジンが始動したら、直ちにエンジンキーから手を離します。

注　記

- 始動しない場合、5秒以上連続してセルモータを回さないでください。エンジンキーを「入」位置に戻し、10秒位休んでから再始動するようにしてください。
- 頻繁なセル始動はなるべく避け、セルモータを起動したら、しばらく連続運転して、バッテリを充電するようにしてください。

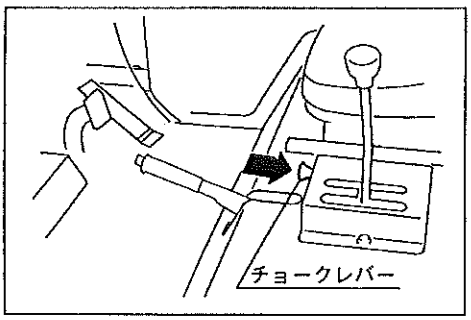
⚠注　意

エンジン回転中は、エンジンキーを「始動」位置に絶対に回さないでください。セルモータの破損の原因になります。

8. アクセルレバーを「低速」側に戻します。

9. アクセルペダルから足を離します。

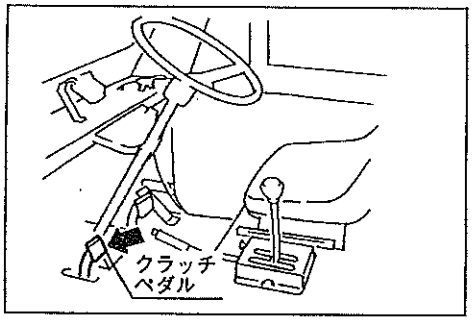
10. クラッチペダルから足を離します。



11. 3～5分間暖機運転をし、エンジンのアイドリングが落ち着いたら、チョークレバーを「全開（⫼）」の位置に戻します。

注　記

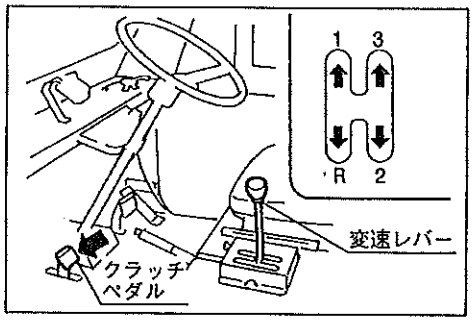
購入後、最初の一週間（約40～50時間）は、慣らし運転期間として、過負荷をかけないように控えめな運転を行ってください。



6.3 運転のしかた

1. 車両の前後、左右の安全を確認します。

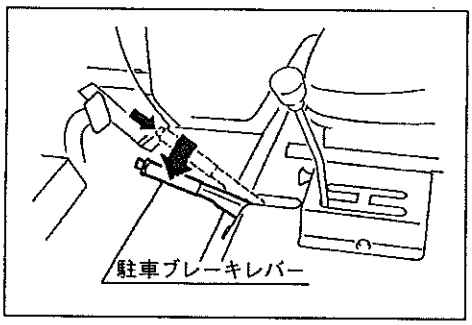
2. クラッチペダルをいっぱいに踏み込みます。



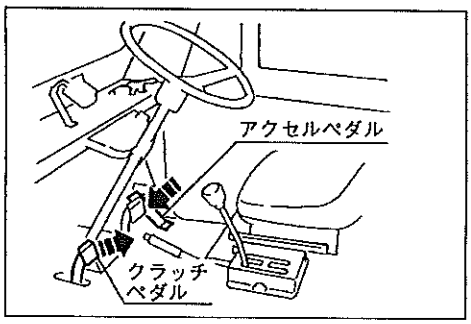
3. 変速レバーを前進（1速～3速）または後進（R）の任意の変速位置に確実に入れます。（各変速位置での走行スピードについては、第5章の「製品仕様」を参照してください。☞11ページ）

⚠危　険

変速（ギヤチェンジ）が不十分な場合、ギヤ抜けのおそれがあり大変危険です。ギヤが入りにくいときは、無理に入れずに、クラッチペダルを一旦離して再度踏み込み、確実にギヤチェンジを行ってください。



4. 駐車ブレーキレバーを解除します。

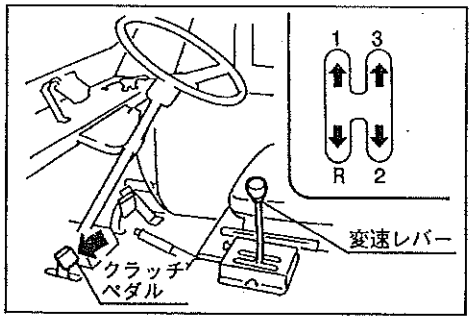


5. アクセルペダルを軽く踏み込み、エンジン回転数を上げておきます。

6. クラッチペダルを徐々に上げ（半クラッチ）、車体をゆっくり発進させます。

注　記

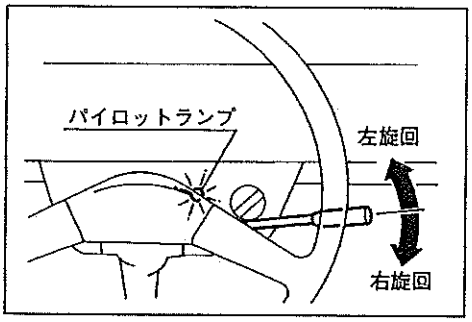
クラッチペダルを急に上げると、エンストする場合があります。



(変速する場合)

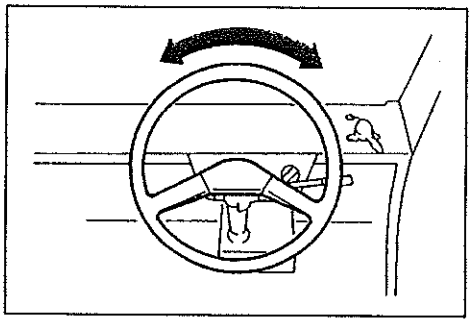
7. 車体を停止させた後、前ページ1～3の操作を行います。(車体の停止のしかたについては、6.4『停止のしかた』を参照してください。☞18ページ)

> ⚠ 注 意
>
> **走行中の変速はできません。必ず車体を停止させてから変速操作を行ってください。**



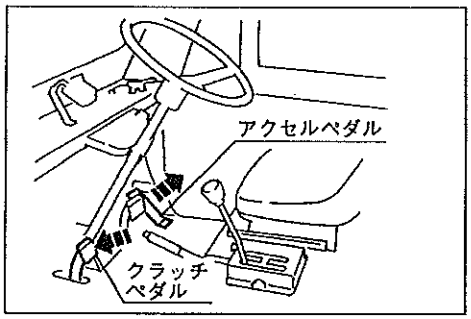
(旋回する場合)

7. ウインカ／ホーンコンビネーションスイッチを旋回したい側（図示参照）に動かします。(パイロットランプが点滅します。)



8. ハンドルを左側または右側に切り、旋回します。

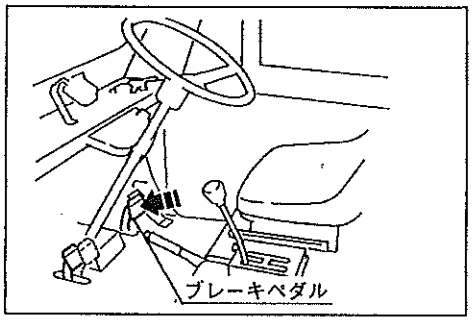
> ⚠ 危 険
>
> **高速走行での急旋回は転倒のおそれがあり、危険です。**



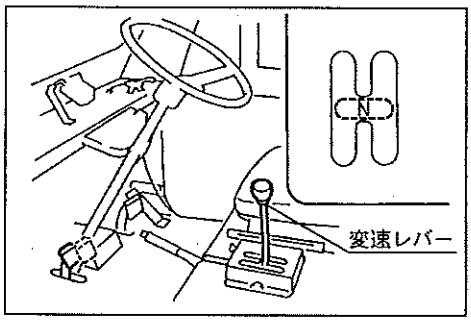
6.4 停止のしかた

1. アクセルペダルから足を離し、エンジンの回転数を落とし、車体を減速させます。

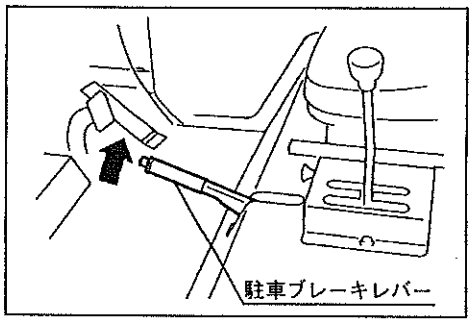
2. クラッチペダルをいっぱいに踏み込みます。



3. ブレーキペダルを徐々に踏み込みます。



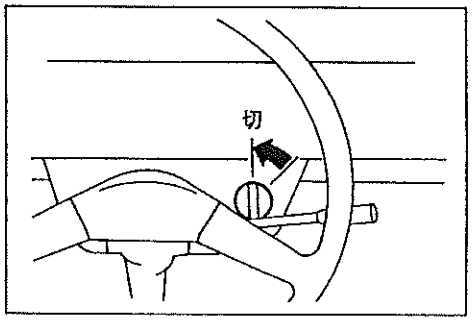
4. 車体が完全に停止したら、変速レバーを「N（ニュートラル）」の位置にします。



5. 駐車ブレーキを確実にかけます。

6. クラッチペダルから足を離します。

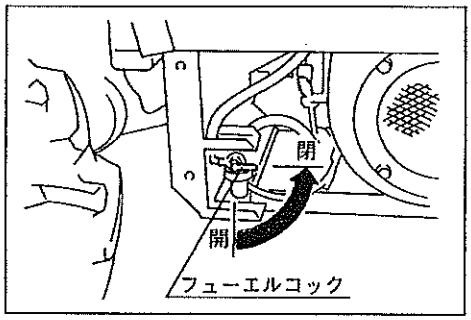
7. ブレーキペダルから足を離します。



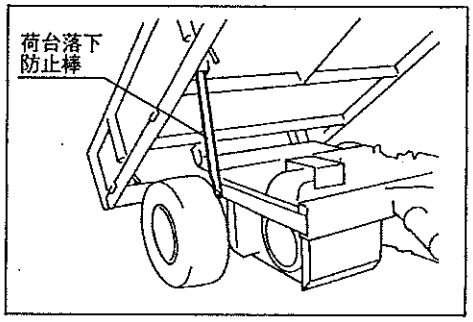
8. エンジンキースイッチを「切」の位置に回し、キーを抜き取ります。

注　記

キースイッチを「入」のままにしておくと、バッテリから各回路に電流が流れ続け、バッテリの上がりの原因になります。



9. フューエルコックを閉じます。



6.5 ダンプ操作

⚠ 危 険

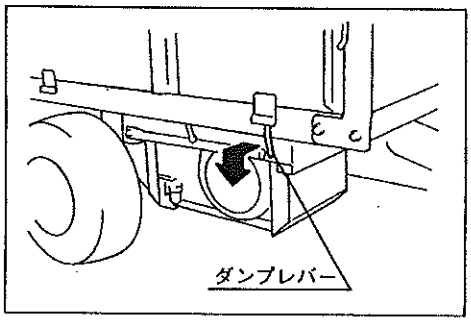
- 荷台を上昇したまま荷台下等の点検を行なう場合は、危険防止のため、本体に備え付けの荷台落下防止棒にて荷台を確実に支えてください。
- ダンプ操作時は周囲の安全確認を必ず行ってください。

⚠ 警 告

急傾斜地でのダンプ操作は、車体が不安定になり、非常に危険ですので、避けてください。やむを得ず坂道でのダンプ操作を行なう場合は、走行部にりん木等を敷き、車体を水平にしてご使用ください。

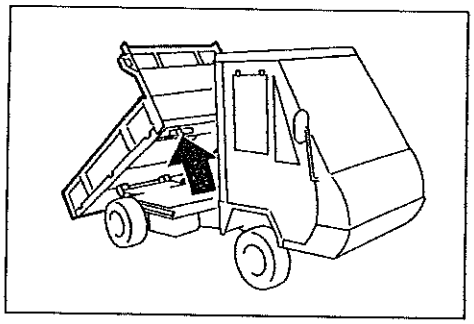
⚠ 注 意

- 荷物が荷台の後方に片寄っている場合、荷台のロックを解除すると、急に荷台が上昇する場合がありますので、注意してください。
- 荷物を積載したまま荷台を下降させる場合、車体に衝撃を与えないよう、荷台をゆっくり下げてください。



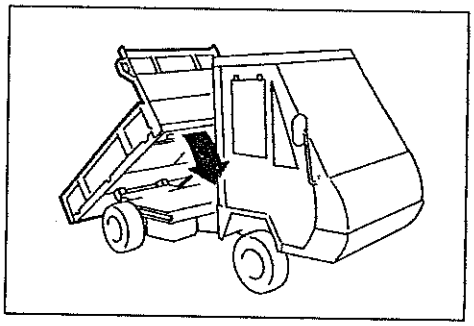
(荷台を上昇させる場合)

1. ダンプレバーを手前に引き、荷台のロックを解除します。



2. 荷台を上方に持ち上げます。

> ⚠ 注 意
>
> **荷台をしっかりと保持して、持ち上げてください。**



(荷台を下降させる場合)

1. 荷台をしっかりと保持したままゆっくりと下降させ、荷台をロックさせます。

> ⚠ 警 告
>
> **荷台をしっかりと保持しないと、荷台の重さの勢いで、荷台が急激に倒れ、危険です。**

2. ダンプレバーを操作せずに荷台を持ち上げ、荷台が確実にロックされているか確認します。

7. 保守（お手入れ）

7.1 定期点検表

点検や整備を怠ると事故の原因となることがあります。製品の正常な機能を維持し、いつも安全な状態で運転または作業をするために、下表を参考に点検を行ってください。
年次点検は１年に１回、月例点検は１ヶ月に１回、始業点検は作業を開始する前に毎日、点検を行なうようにしてください。

注　記

下表の点検内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない点検内容については、販売店（当社センター）へ依頼してください。

項目			点検内容		点検時期 始業	月例	年次	備考
原動機	本体	始動性	• エンジンのかかり具合および異音の有無を調べる。	始動が容易で、異音がないこと。	○	○	○	
		回転の状態	• アイドリング時および無負荷最高回転時の回転数を調べる。また、回転が円滑に続くか調べる。	正規の回転数であること。回転が円滑に続くこと。		○	○	販売店へ点検を依頼してください。
			• エンジンを加速した時、スロットルレバーの引っ掛かり、エンジン停止およびノッキングの有無を調べる。	引っ掛かり、エンジン停止またはノッキングがないこと。	○	○	○	
		排気の状態	• エンジンを十分に暖機した状態で、アイドリング時から高速回転時まで排気色および排気音の異常の有無を調べる。	排気色および排気音が正常であること。	○	○	○	
			• 排気管、マフラ等からのガス漏れの有無を調べる。	ガス漏れのないこと。		○	○	
		エアクリーナ	• ケースの亀裂、変形およびふた部、接続管の緩みの有無を調べる。	ケースの亀裂、変形またはふた、接続管に緩みがないこと。		○	○	
			• エレメントの汚れおよび損傷の有無を調べる。	著しい汚れまたは損傷がないこと。		○	○	清掃／交換：☞31ページ
		締付け	• シリンダヘッドおよびマニホールドの締付け部のボルトおよびナットの緩みの有無を調べる。 ＊これらの部分からガス漏れや水漏れが認められない場合は、この検査を省略してもよい。	緩みがないこと。			○	
		弁隙間	• 弁隙間を調べる。 ＊弁隙間の異常による異音がなく、エンジンが円滑に回転している場合は、この検査を省略してもよい。	正規の弁隙間であること。			○	販売店へ点検を依頼してください。
		圧縮圧力	• 圧縮圧力を調べる。 ＊アイドリング時および加速時の回転状態ならびに排気の状態に異常がなければこの検査を省略してもよい。	正規の圧縮圧力であること。			○	販売店へ点検を依頼してください。

項目			点検内容		点検時期 始業	月例	年次	備考
原動機	本体	エンジンマウント	• エンジンベースの亀裂および変形の有無を調べる。	亀裂または変形がないこと。	○	○	○	
			• 取付けボルトおよびナットの緩みおよび脱落の有無を調べる。	緩みまたは脱落がないこと。	○	○	○	
			• 防振ゴムの損傷および劣化の有無を調べる。	損傷または劣化がないこと。	○	○	○	
	潤滑装置		• 油量および油の汚れを調べる。	油量が適正で著しい汚れがないこと。	○	○	○	点検／交換：☞25ページ
			• ヘッドカバー、オイルパン、パイプ等からの油漏れの有無を調べる。	著しい油漏れがないこと。	○	○	○	
	燃料装置		• 燃料タンク、ホース、パイプ等からの燃料漏れの有無を調べる。	燃料漏れのないこと。	○	○	○	
			• 燃料ホースの損傷および劣化の有無を調べる。	損傷または劣化がないこと。	○	○	○	
			• 燃料フィルタエレメントの汚れおよび詰まりの有無を調べる。	著しい汚れまたは詰まりがないこと。		○	○	清掃：☞32ページ
	電気装置	点火プラグ	• 電極の消耗状態、カーボンの堆積の有無を調べる。	消耗がなく、カーボンの堆積がないこと。			○	点検／清掃：☞31ページ
		バッテリ	• 電解液の量が規定の範囲にあるか調べる。	規定範囲にあること。		○	○	点検／補給：☞29ページ
			• 端子部の緩みおよび腐食の有無を調べる。	緩みまたは著しい腐食がないこと。		○	○	
		配線	• 接続部の緩みの有無を調べる。	緩みがないこと。		○	○	
			• 配線の損傷の有無を調べる。	損傷がないこと。		○	○	
動力伝達装置	クラッチ		• アイドリング状態でクラッチを切り、異音の有無を調べると共にトランスミッションを変速しクラッチの切れ具合を調べる。	異音がなくクラッチが完全に切れること。	○	○	○	調整：☞33ページ
			• クラッチを徐々に接続して発進の具合を調べる。	滑りがなく接続が円滑であること。	○	○	○	調整：☞33ページ
			• クラッチペダルの遊びを調べる。	適正な値であること。		○	○	点検：☞33ページ
	Vベルト		• 亀裂、損傷および汚れの有無を調べる。	亀裂、損傷がなく油脂類の付着がないこと。		○	○	点検：☞33ページ
			• ベルトの張り具合を調べる。	適正な張りであること。		○	○	
	トランスミッション（ディファレンシャル含む）		• 変速レバーを前進および後進状態にして駆動し、作動状態ならびにギヤ抜け、異音および異常発熱の有無を調べる。	正常に作動し、ギヤ抜け、異音または異常発熱がないこと。	○	○	○	
			• ケース内の油量を調べる。	油量が適正であること。		○	○	点検：☞26、27ページ
			• 油の汚れを調べる。	著しい汚れがないこと。		○	○	点検：☞26、27ページ
			• ケース周辺からの油漏れの有無を調べる。	油漏れのないこと。		○	○	
	プロペラシャフト		• クラッチをつないでプロペラシャフトに異音および異常振動がないか調べる。	異音および異常振動がないこと。		○	○	
			• 曲がりおよび損傷がないか調べる。	曲がりおよび損傷のないこと。		○	○	

項目		点検内容		点検時期 始業	月例	年次	備考
走行装置	タイヤ、ホイール	• タイヤの空気圧および溝の深さを調べる。	基準値内であること。	○	○	○	点検：☞35ページ
		• タイヤ、ホイールの亀裂、損傷および偏摩耗の有無を調べる。	亀裂、損傷、偏摩耗がないこと。	○	○	○	
		• タイヤの溝に金属片、石、その他の異物のかみ込みがないか調べる。	かみ込みがないこと。	○	○	○	
		• ホイールボルト、ハブナットの緩み、脱落の有無を調べる。	緩み、脱落のないこと。	○	○	○	
		• ホイールベアリング部のガタ、異音および異常発熱の有無を調べる。	ガタ、異音、異常発熱がないこと。		○	○	
制動装置	ブレーキ	• 車両を走行させてブレーキの効き具合をブレーキペダルおよび駐車ブレーキレバーを操作して調べる。	効き具合が適正であること。	○	○	○	調整：☞34ページ
		• 無負荷状態で1/5勾配の床面で停止の状態に保持できるかを調べる。	効き具合が適正であること。	○	○	○	調整：☞34ページ
		• ブレーキペダルの遊びを調べる。	適正値であること。		○	○	調整：☞34ページ
	ロッド、リンク及びワイヤ類	• ロッド、リンクおよびワイヤ類の損傷ならびに取付け部の緩みの有無を調べる。	損傷または緩みがないこと。	○	○	○	
		• ブレーキを反復作動させ、連結部の緩みおよびガタならびに割ピンの欠損の有無を調べる。	連結部の緩みまたはガタ、割ピンの欠損がないこと。	○	○	○	
車体・荷台	荷台	• ドアの開閉が円滑に行えるかを調べる。	円滑に行えること。	○	○	○	
		• 各部の亀裂、変形および摩耗の有無を調べる。	各部の亀裂、変形および摩耗がないこと。	○	○	○	
		• 取付けボルトの緩みおよび脱落の有無を調べる。	ボルトの緩み脱落がないこと。	○	○	○	
	車体	• 車体およびカバーの亀裂、変形およびボルト、ナットの緩み、脱落の有無を調べる。	亀裂、変形およびボルト、ナットの緩み、脱落のないこと。		○	○	
	荷台落下防止棒	• 曲がりおよび変形がないか調べる。	曲がりおよび変形がないこと。		○	○	
安全装置	前照灯	• ライトスイッチを操作し、正常に点灯するか調べる。	正常に点灯すること。	○	○	○	
		• レンズに破損および水等の浸入がないか調べる。	破損および水等の浸入がないこと。		○	○	
	ウインカ	• ウインカ／ホーンコンビネーションスイッチを操作し、正常にウインカおよびパイロットランプが点滅するか調べる。	正常に点滅すること。	○	○	○	
		• レンズに破損および水等の浸入がないか調べる。	破損および水等の浸入がないこと。		○	○	
	ホーン	• ウインカ／ホーンコンビネーションスイッチを操作し、正常に鳴るか調べる。	正常に鳴ること。	○	○	○	
	バックミラー	• 汚れ、損傷、脱落がないか調べる。	汚れ、損傷、脱落がないこと。	○	○	○	

7.2 給油、給水、給脂、注油一覧表

項　　目	補給（交換）時期	推　奨　品	容量	参照ページ
燃料	随時	ガソリン	17 ℓ	☞12ページ
エンジンオイル	補給：毎日点検し、不足時に補給 交換： 初回：20時間 2回目以降：50時間毎	エンジンオイル （API分類 SD級以上 SAE分類 10W30）	0.6 ℓ	☞25ページ
トランスミッションオイル	初回：50時間目 2回目以降：500時間毎	ギヤオイル（API分類 GL4または5 SAE分類 #80）	2.7 ℓ	☞26ページ
ディファレンシャル（デフ）オイル	初回：50時間目 2回目以降：500時間毎	ギヤオイル（API分類 GL4または5 SAE分類 #80）	0.7 ℓ	☞27ページ
グリースニップル	6ヶ月毎 ＊購入後、半年は給脂不要	シャーシグリース	—	☞28ページ
各摺動部	6ヶ月毎 ＊購入後、半年は注油不要	ギヤオイル（API分類 GL4または5 SAE分類 #80）	—	☞28ページ
バッテリ液	毎月点検し、不足時に補給	蒸留水	—	☞29ページ

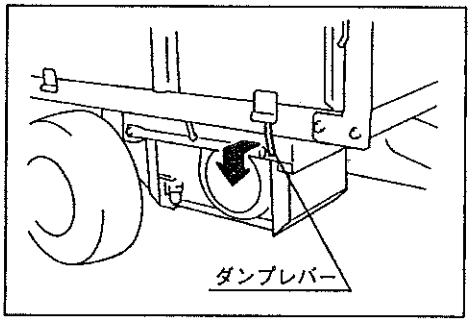
7.3 消耗品（交換部品）一覧表

項　　目	交　換　時　期	個　　数	参照ページ
エアクリーナエレメント	50時間運転毎に点検し、必要に応じて清掃または交換	1	☞31ページ
フューエルフィルタ	200時間運転毎に点検し、必要に応じて清掃または交換	1	☞32ページ
Vベルト	不具合があれば交換	2	交換については販売店へ依頼してください
ブレーキライニング	不具合があれば交換	2 （左右同時に交換）	交換については販売店へ依頼してください
バッテリ	不具合があれば交換	1	—
タイヤ	不具合があれば交換	4（左右各2）	—
上記以外で点検上交換が必要と思われる部品	販売店（当社センター）へお問い合わせください。	—	—

7.4 給油

注　記

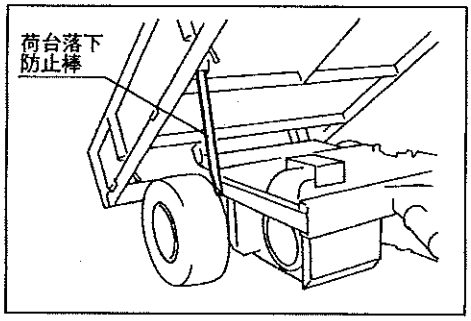
給油がおろそかになると、回転が円滑に行われないばかりでなく、故障の原因となり機械の寿命を短くしますので、常に指定の良質オイルを過不足なく給油してください。



7.4.1 エンジンオイル

点検前の準備

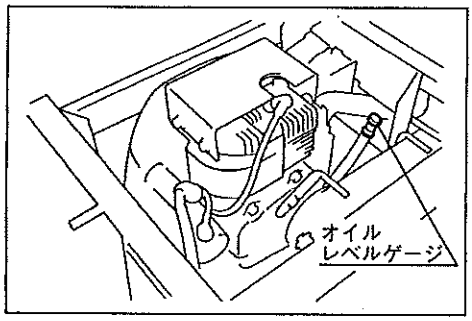
1. ダンプレバーを手前に引き、荷台のロックを解除します。

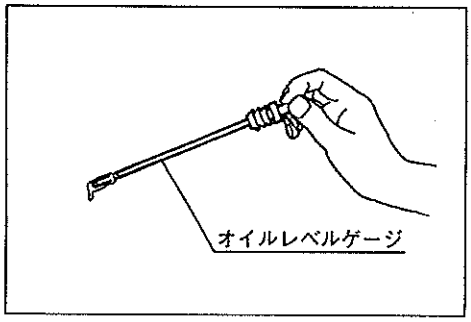


2. 荷台を持ち上げ、荷台落下防止棒で荷台を確実に支えます。

点検／補給

1. オイルレベルゲージを取外します。

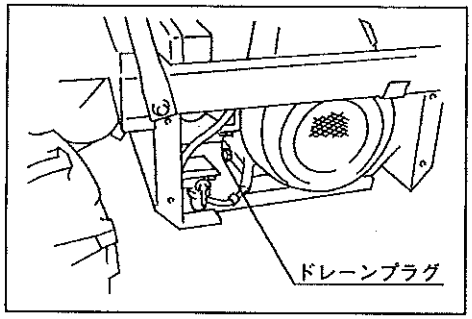




2. エンジンオイル量および汚れを目視点検し、規定量でない場合および汚れがひどい場合は、エンジンオイルを補給または交換します。

   使用オイル：☞24ページ
   エンジンオイル量：
   オイルレベルゲージの「F」と「L」の刻み線間
   （上限「F」以上は入れないでください。）

3. オイルレベルゲージを取付けます。



交換

1. オイルを抜取る適当な容器を用意します。
2. オイルドレーンプラグを取外し、クランクケース内のオイルを排出します。

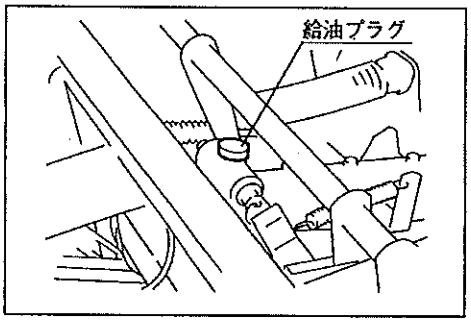
⚠注　意

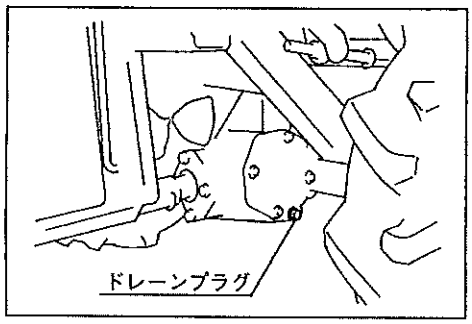
オイル高温時には火傷のおそれがあります。

注　記

廃油は適切な処理をしてください。

3. オイルドレーンプラグを取付けます。
4. 給油プラグを開け、指定のオイルを注入します。





7.4.2　トランスミッションオイル

点検／補給

1. 荷台を上昇させます。(☞25ページ)
2. 給油プラグを取外します。
3. オイル量および汚れについて目視点検し、オイルが不足している場合および汚れがひどい場合は、補給または交換します。

   使用オイル：☞24ページ

4. 給油プラグを取付けます。

交換

1. オイルを抜取る適当な容器を用意します。
2. ドレーンプラグを取外し、オイルを抜取ります。

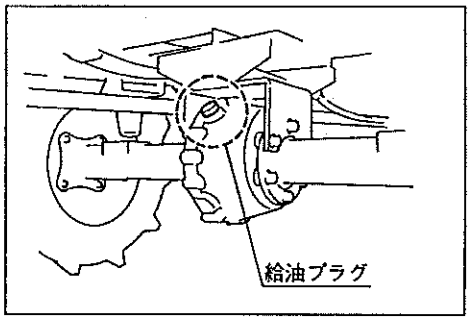
⚠注　意

オイル高温時には火傷のおそれがあります。

注　記

廃油については適切な処理をしてください。

3. ドレーンプラグを取付けます。
4. 給油プラグを開け、指定のオイルを注入します。



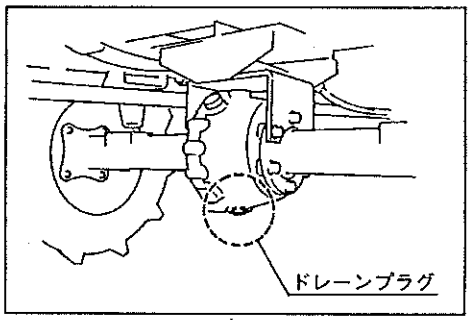
7.4.3 ディファレンシャル（デフ）オイル

点検／補給

1. 給油プラグを取外します。
2. オイル量および汚れについて目視点検し、オイルが不足している場合および汚れがひどい場合は、補給または交換します。

   使用オイル：☞24ページ

3. 給油プラグを取付けます。



交換

1. オイルを抜取る適当な容器を用意します。
2. ドレーンプラグを取外し、オイルを抜取ります。

   参考：
   給油プラグを取外すと、オイルが抜取りやすくなります。

⚠注　意

オイル高温時には火傷のおそれがあります。

注　記

廃油については適切な処理をしてください。

3. ドレーンプラグを取付けます。
4. 給油プラグを開け、指定のオイルを注入します。（上記「点検／補給」を参照）

7.5 給脂・注油

注　記

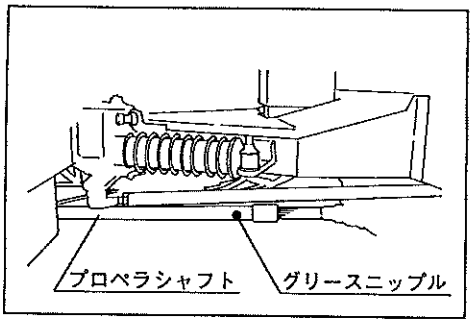
給脂および注油がおろそかになると、焼き付きや錆付きの原因となり、回転や作動が円滑に行れないおそれがありますので、定期的に給脂および注油を行ってください。

7.5.1 給脂

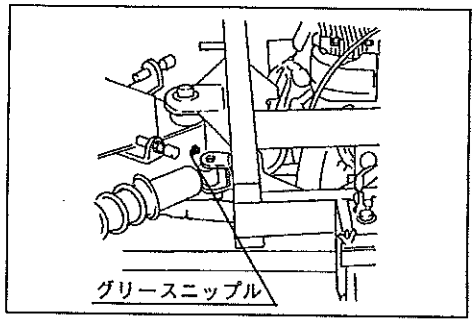
市販の手動式グリースポンプまたはエア式グリースポンプを使用して下記箇所に給脂します。

使用グリース：☞24ページ

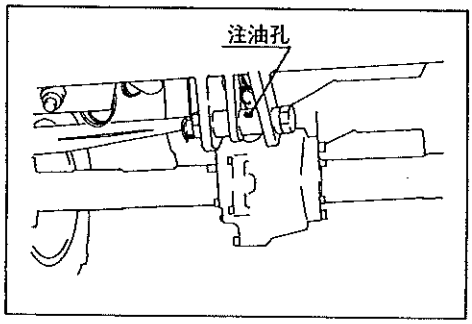
参考：
手動式のグリースポンプを使用の場合は５～６回突いてください。途中でポンプハンドルが重くなったら、直ちに給脂を中止してください。エア式のグリースポンプを使用の場合は２～３秒で十分です。



① プロペラシャフトボス部



② ローリングパイプ取付け部

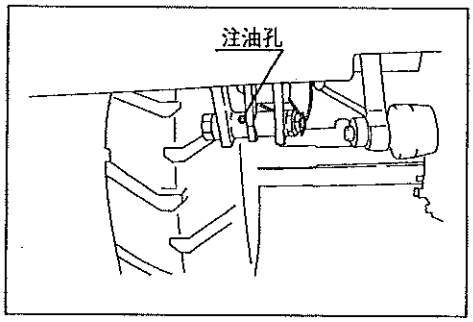


7.5.2 注油

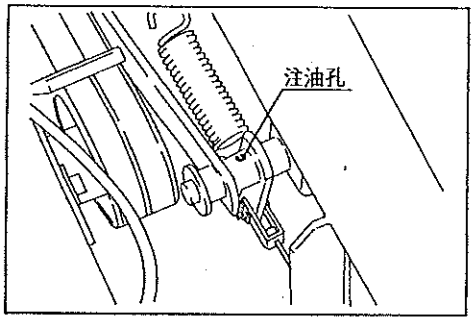
下記箇所に注油します。

使用オイル：☞24ページ

① クラッチペダルおよびブレーキペダルのリンク部



② アクセルペダルのリンク部



③ テンションアームの軸

7.6 給水

7.6.1 バッテリ液

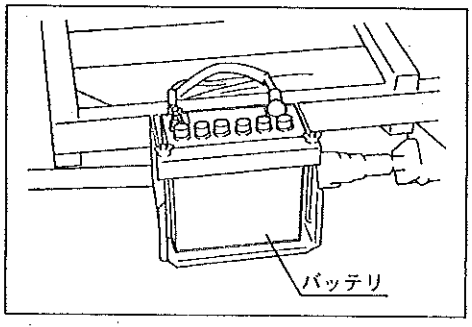
点検／補給

⚠ 危 険

バッテリから発生するガスは引火性があるため、バッテリに火気（煙草の火等）を絶対に近付けないでください。爆発するおそれがあります。

⚠ 注 意

- バッテリ液を身体や服に付けないようにしてください。付着したまま放置すると、バッテリ液（希硫酸）によって、火傷することがあります。
- バッテリの点検および取外しのときにはエンジンを停止し、エンジンキースイッチを「切」にしてください。



1. バッテリ液の量を目視点検し、必要な場合はバッテリ液を補給します。

   バッテリ液量：基準線（上および下）の間
   バッテリ液：蒸留水

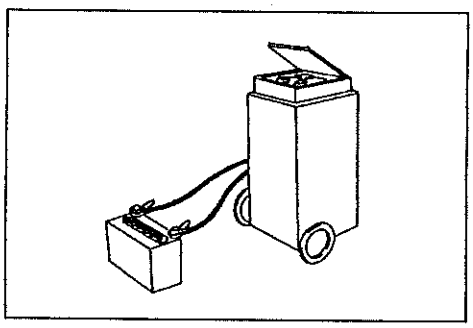
充電

⚠注　意

- バッテリは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。
- バッテリにコードを接続するときは、⊕と⊖を間違えないようにしてください。一度でも間違えるとヒューズが飛び、バッテリが充電できなくなります。
- バッテリからコードを外すときは⊖側、取付けるときは⊕側から行ってください。逆にすると、工具が当たった場合にショートします。
- バッテリを取外し、再度取付けるときにはバッテリの⊕、⊖のコードを元どおりに配線し、周りに接触しないように締め付けてください。

注　記

急速充電法は、短時間で放電量の幾分かを補うために大電流で充電する方法です。この方法は応急的処置として行うものです。作業が終わったらなるべく早く、正しく補充電をしておいてください。補充電をしておかないと、バッテリの寿命は極端に短くなります。



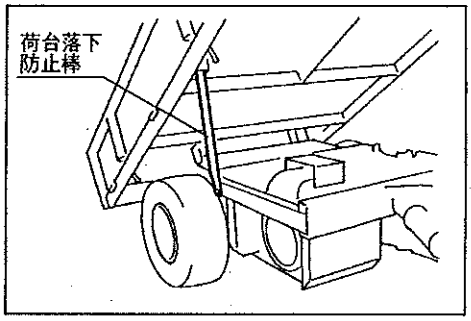
1. バッテリを取外します。
2. バッテリの⊕と充電器の⊕、バッテリの⊖と充電器の⊖をそれぞれ接続して充電します。（使用する充電器の「取扱説明書」の指示に従ってください。）

7.7 清掃

7.7.1 エアクリーナエレメント

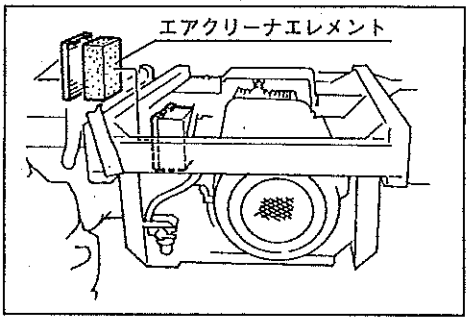
注　記

- **エアクリーナエレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良、出力不足、エンジンの寿命低下を引起こすため、定期的（50時間運転毎）に清掃するよう心掛けてください。**



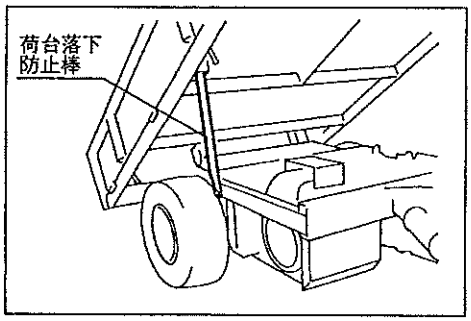
清掃／交換

1. ダンプレバーを手前に引き、荷台のロックを解除します。(☞25ページ)
2. 荷台を持ち上げ、荷台落下防止棒で荷台を確実に支えます。



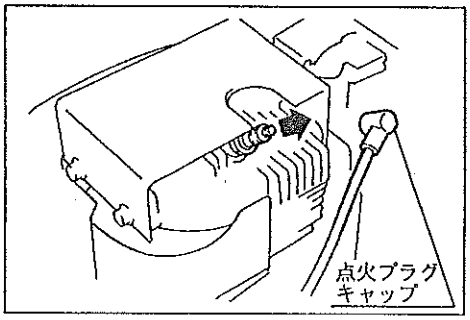
3. エアクリーナカバーを取外します。
4. エアクリーナエレメントを取外します。
5. 付属の「エンジン取扱説明書」を参照して、エアクリーナエレメントを清掃します。

7.7.2 点火プラグ



点検

1. ダンプレバーを手前に引き、荷台のロックを解除します。(☞25ページ)
2. 荷台を持ち上げ、荷台落下防止棒で荷台を確実に支えます。

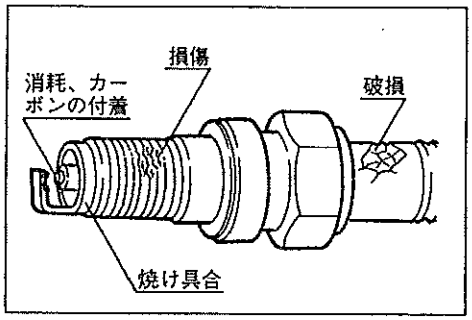


3. 点火プラグキャップを取外します。

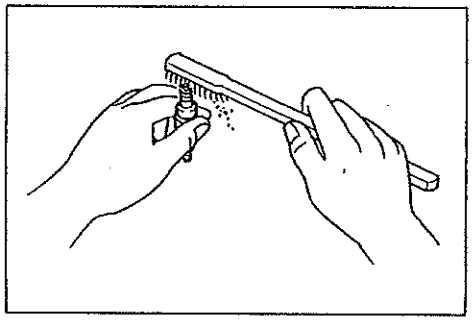
注　記

点火プラグキャップを取外すときは、コードを引っ張らず、必ずキャップを持って取外してください。

4. プラグレンチを使用して点火プラグを取外します。

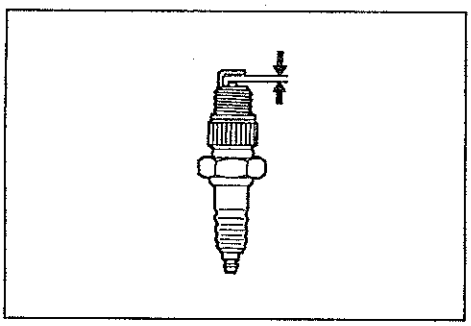


5. 次の点検を行い、不具合があれば清掃または交換します。（点火プラグの仕様：☞10ページ）
   - 絶縁体破損の有無
   - 電極の消耗状況
   - カーボンの堆積
   - ガスケットの損傷、破損
   - 火花部碍子の焼け具合



清掃

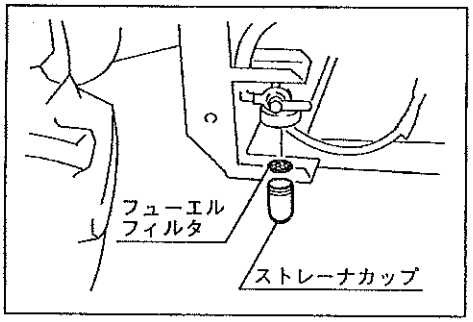
1. ワイヤ・ブラシ、プラグ・クリーナで点火プラグを清掃します。



2. 電極（火花）すき間が下記の値になるように、紙ヤスリで磨いてすき間を調整します。

   標準値： 1.0 mm

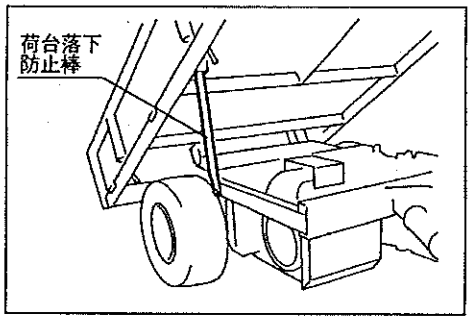
3. 点火プラグを取付けます。



7.7.3 フューエルコック（フューエルフィルタ）

清掃

1. フューエルコックを閉じます。
2. ストレーナカップを取外します。
3. ストレーナカップの底にたまっている沈殿物（ゴミや水等）を除去します。
4. フューエルフィルタを新しいガソリンで洗浄します。

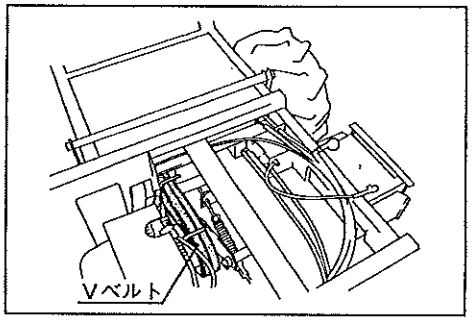


7.8 調整

7.8.1 Vベルト

点検

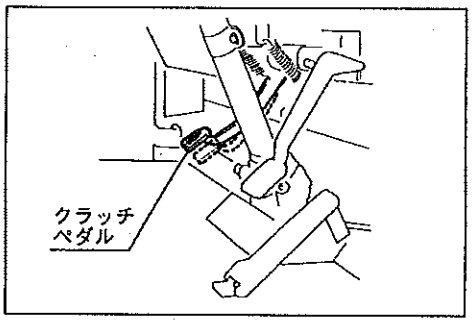
1. ダンプレバーを手前に引き、荷台のロックを解除します。(☞25ページ)
2. 荷台を持ち上げ、荷台落下防止棒で荷台を確実に支えます。
3. Vベルトに損傷がないか目視点検します。損傷がある場合は交換します。



交換

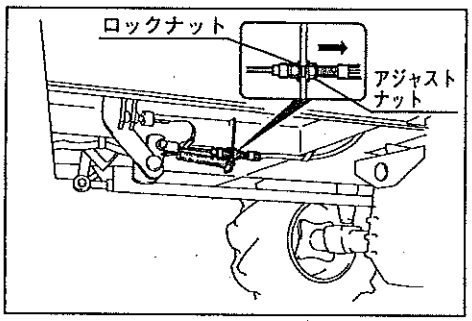
販売店へ依頼してください。

7.8.2 クラッチ

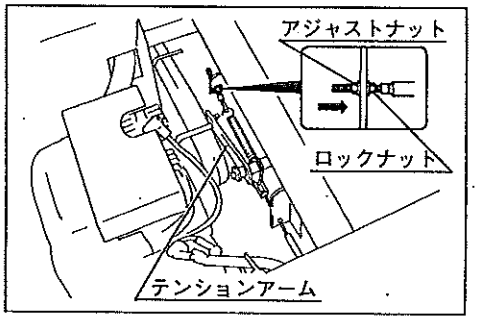


クラッチペダルの遊び

クラッチペダルは、クラッチ「入」（踏まない）の状態でペダルの先端での遊びが約10mm程度にセットされていますが、長期の使用で遊びが少なくなってきたら、クラッチワイヤのロックナットを緩めた後、アジャストナットで調整してください。

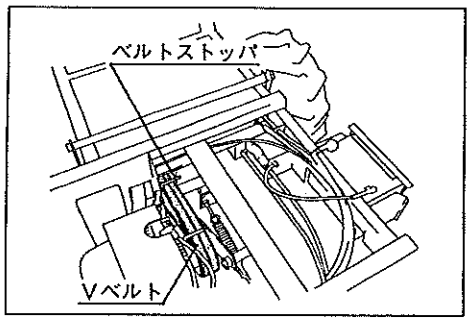


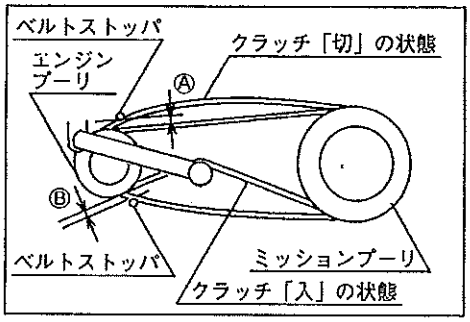
・クラッチペダルの遊びが少ない場合
アジャストナットを矢印の方向へ



Vベルトの滑り

ロックナットを緩めた後、アジャストナットを矢印の方向へ締めて、テンションアームにてベルトを張ってください。





7.8.3 ベルトストッパ

注　記

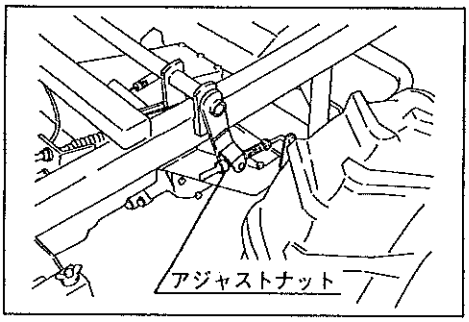
- **クラッチが完全に切れない原因にベルトストッパの調整不良があります。ベルト交換等によりベルトストッパを外した場合、以下のように調整してください。**
- **調整はエンジン停止の状態で行ってください。**

1. ダンプレバーを手前に引き、荷台のロックを解除します。(☞25ページ)
2. 荷台を持ち上げ、荷台落下防止棒で荷台を確実に支えます。(☞25ページ)
3. **クラッチペダルを踏み込んだ（クラッチ「入」）状態で、**Vベルトとベルトストッパの間隔Ⓐを2～3mm程度に、Ⓑの間隔を2～5mm程度にセットします。

7.8.4 ブレーキ

注　記

最も重要な調整にブレーキ調整があります。少しでも甘くなったり、片効きするような場合は直ちに下記の調整を行い、常に安全を心がけるようにしてください。



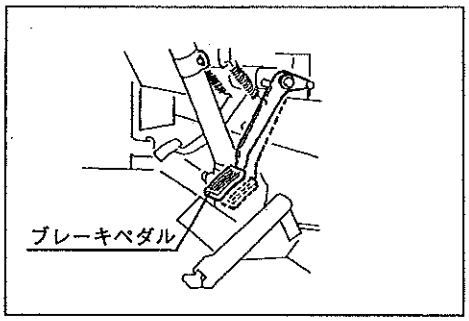
ホイールブレーキの調整

ブレーキライニングが摩耗した場合、特にこの調整が必要です。

1. 駐車ブレーキを解除します。
2. ホイールブレーキのアジャストナットを締め込み、ホイールブレーキを調整します。

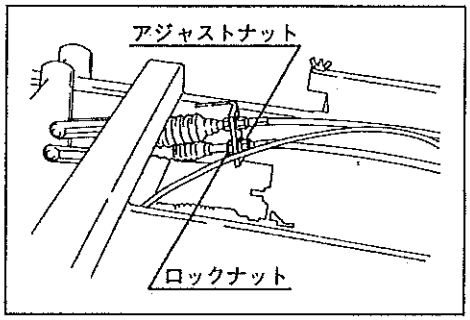
注　記

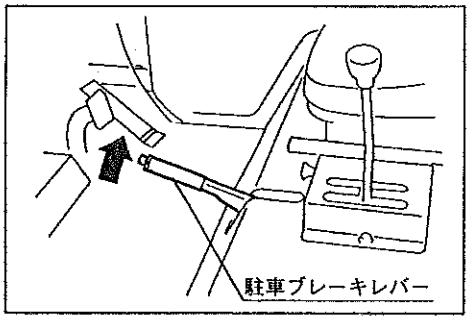
- **ホイールブレーキの調整は、片効きしないよう、左右均一に締めてください。**
- **アジャストナットは、変速レバーが「N」、駐車ブレーキ解除の状態、積み荷なしの状態で、手で押して車体が動く範囲で締め込んでください。**



ブレーキペダルの遊び

ホイールブレーキの調整後、ペダルを軽く押したとき遊びが先端で０～10mmになるよう、ブレーキワイヤのロックナットを緩めた後、アジャストナットにて調整してください。



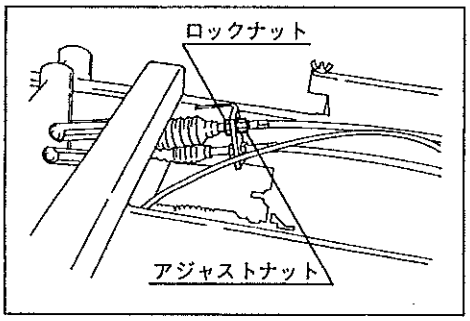


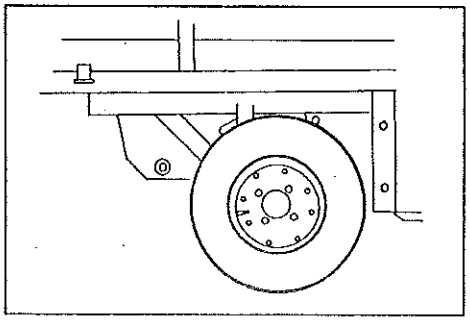
駐車ブレーキの調整

駐車ブレーキレバーを引いて、駐車ブレーキレバーのロックがおよそ５～７ノッチで止まるよう、ブレーキワイヤのロックナットを緩めた後、アジャストナットにて調整してください。

注　記

ブレーキを調整後に、駐車ブレーキを解除して、変速を「N」の状態で、車体を押して動くことを確認してください。





7.8.5　タイヤの空気圧

1. 前輪および後輪のタイヤの空気圧を点検し、標準値でない場合は調整します。

	タイヤ	空気圧（kg/cm²）
前　輪	AG17×8.00-8 4PR	1.6
後　輪	AG17×8.00-8 4PR	1.6

7.9 使用後のお手入れ

（通常時の使用後のお手入れ）

・ 使用後は車体に付着した泥や異物を取除いてください。エンジンや操作盤および各種給油口の水洗いは水の浸入や錆付きの原因になるため避けてください。

・ 屋外に放置するときは、防水カバー等を掛けておいてください。

（寒冷期の使用後のお手入れ）

・ 使用後必ず車体に付着した泥や異物を取除いて、コンクリートか固い乾燥した地面上または角材の上に駐車してください。付着物は凍結して故障の原因となります。

・ 屋外に放置するときは、防水カバー等を掛けておいてください。

注　記

凍結して運転不能となった場合は無理に動かそうとせずに、凍結箇所を水・お湯等で解かすか、凍結が解けるまで待ってください。

8. 格納（長期保管）

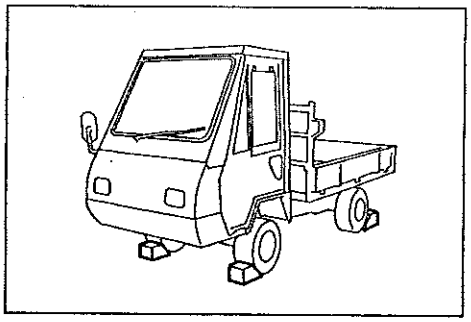
長期保管する場合は、次の使用時に備えて適切な処置をしておく必要があります。長期保管をする際は、使用後のお手入れ（☞36ページ）をした後、以下の指示に従ってください。

⚠危　険

火気のある場所および高温な場所に本機およびバッテリ、燃料等を格納しないでください。火災の原因となり危険です。

注　記

湿気やほこりの多い場所での本機の格納は避け、格納時にはエンジンが冷えてから、防水シートを本機にかけておいてください。



8.1 本機（車両）

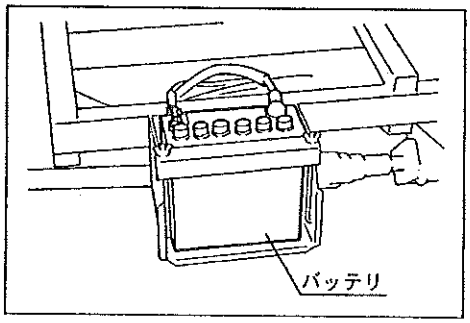
1. 外面を油のしみた布で清掃し、回転摺動部は注油します。
2. 駐車ブレーキレバーを引かずに、輪止めをします。
3. エンジンキーを抜きます。

8.2 バッテリ

⚠注　意

バッテリ線を外す場合はマイナス（−）を先にプラス（＋）を後で外し、接続する場合はプラス（＋）を先にマイナス（−）を後で接続します。

1. 本体（車両）からバッテリを取外します。
2. バッテリ液の量を確認し、必要な場合は補充します。（☞29ページ）
3. 低温で乾燥した場所に保管します。

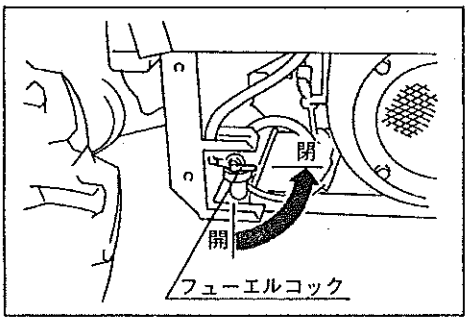


参考：
バッテリは使用しなくとも約６ヶ月は蓄電していますが、放電してしまわないうちに充電すると、バッテリを長持ちさせることができます。

8.3 エンジン

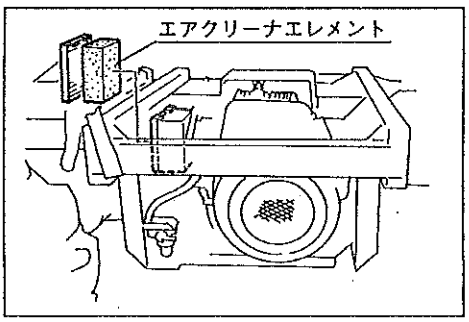
注　記

- 気化器内へ燃料を入れたまま長期間放置すると燃料が劣化し、始動不良および回転変動が生じますので、長期保管する場合は気化器内および燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。また長期間放置した燃料はなるべく使用しないでください。
- エンジン長期保管の詳細については、付属の「エンジン取扱説明書」を参照してください。



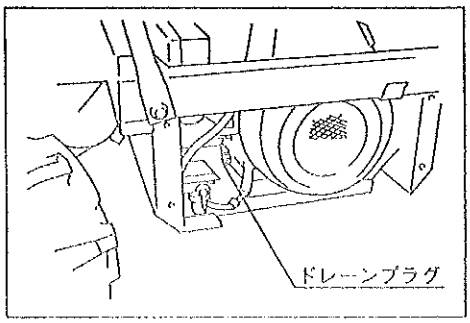
8.3.1 フューエルコック

1. フューエルコックを「閉」の位置にして燃料の供給を停止します。



8.3.2 エアクリーナエレメントの清掃

1. エアクリーナエレメントを取外し、確実に清掃します。(☞31ページ)



8.3.3 エンジンオイルの交換

1. エンジンオイルを抜取り、新しいエンジンオイルと交換します。(☞26ページ)

9. 不具合発生時の処置

- 不具合と考えられる現象が起きた場合は、本機の使用を停止し、下記の「不具合診断表」を参照して適切な処置をしてください。「不具合診断表」に掲載されていない不具合が発生した場合や適切な処置を行っても不具合が解消されない場合は、販売店または当社各センターまで連絡してください。

- 処置については、専門的な整備知識を必要とするものもありますので、整備が難しいものについては、販売店または当社センターに依頼してください。

9.1 不具合診断表

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置
エンジン関連	エンジンがかからないまたはかかりにくい	• 燃料不足	▶補給する（☞12ページ）
		• 燃料の吸い込みすぎ	▶時間をおいて始動する
		• バッテリの容量不足（セルモータの起動不良）	▶バッテリ液を補給する（☞29ページ）
			▶バッテリを充電する（☞30ページ）
			▶バッテリを交換する
		• ヒューズ切れ	▶交換する（販売店へお問い合わせください）
		• 電気配線の接触不良または断線	▶修理する（販売店へ依頼してください）
		• エンジンオイルの不足または品質不良	▶補給または交換する（☞25ページ）
		• 点火プラグの汚れまたは火花の飛び不足による着火不良	▶清掃または交換する（☞31ページ）
		• クラッチペダルを踏んでいない	▶クラッチペダルを踏む
		• その他（上記以外）	▶本書の第6章6.2項「始動のしかた」の手順に従って再度始動を試み、始動不可能の場合は販売店へ修理を依頼してください。
	すぐにエンストする	• フューエルコックが開いていない	▶フューエルコックを開く（☞12ページ）
		• 燃料不足	▶補給する（☞12ページ）
		• チョークの戻し忘れ	▶チョークを戻す
	エンジンが突然停止した	• 燃料切れ	▶補給する（☞12ページ）
		• エンジンオイル不足またはオイル劣化によるエンジンの焼き付き	▶販売店へお問い合わせください

9 不具合発生時の処置

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処　　置
エンジン関連	アイドリング不良 (エンジン回転にムラがある)	———	▶販売店へお問い合わせください
	出力または加速不足	• Vベルトの緩み • アクセルの調整不良 • 過積載	▶調整する ▶販売店へお問い合わせください ▶積み荷を減らす
	エンジンまたはエンジン付近から異音または振動がする	• オイル不足またはオイル劣化によるエンジンの焼き付き • その他（タペット音）	▶販売店へお問い合わせください ▶販売店へお問い合わせください
	エンジンオイルの消費が早い	• エンジンオイルの漏れ	▶点検および修理する
	エンジンのオーバヒート	• エンジンオイルの不足	▶補給する（☞25ページ）
	燃料の消費が早い	• 燃料系統からの燃料漏れ • エアクリーナの目詰まり	▶点検および修理する（販売店へ依頼してください） ▶清掃または交換する（☞31ページ）
	黒煙が多量に出る (排気状態の不良)	• 圧縮不良 • エアクリーナの目詰まり • チョークの戻し忘れ	▶点検および修理する（販売店へ依頼してください） ▶清掃または交換する（☞31ページ） ▶チョークを戻す
	白煙または青煙が出る (排気状態の不良)	• エンジンオイルが入り過ぎている • 燃料不良 • シリンダ、ピストンリングの摩耗	▶点検後、オイル量を調整する（☞25ページ） ▶燃料を交換する ▶点検および修理する（販売店へ依頼してください）
	アクセルレバーまたはペダルが引っ掛かる	• アクセルワイヤの折れ、錆付き	▶交換する（販売店へ依頼してください）

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置
動力伝達装置関連	クラッチをつないでも車が動かない	・確実に変速（シフト）していない	▶確実に変速（シフト）する
		・ブレーキが効いている	▶ブレーキの解除
		・Vベルトが外れている、緩みすぎている	▶Vベルトをかける、または調整する（販売店に依頼してください）
		・トランスミッションの故障	▶販売店に連絡してください
	クラッチの切れが悪い	・Vベルトのつき回り	▶ベルトストッパを調整する（☞34ページ）
		・Vベルトの張りすぎ	▶調整する（☞33ページ）
		・クラッチワイヤが外れている	▶修理する
	クラッチをつなぐとVベルトが滑る	・調整不良	▶調整する（☞33ページ）
	クラッチペダルの遊びが過大または過小	・調整不良	▶調整する（☞33ページ）
	トランスミッション付近から異音がする	・ギヤの損傷、ベアリングの摩耗	▶販売店へお問い合わせください
	変速できない	・クラッチの調整不良	▶調整する（☞33ページ）
		・ギヤの損傷、ベアリングの摩耗	▶販売店へお問い合わせください
	ギヤ抜けする	・確実に変速（シフト）していない	▶確実に変速（シフト）する
		・ギヤの摩耗	▶販売店へお問い合わせください
		・過積載	▶積み荷を減らす
制動装置関連	効きが悪いまたは片効きする	・調整ナットの緩み	▶調整する（☞34ページ）
		・ブレーキライニングの摩耗	▶ライニングを交換する（販売店へ依頼してください）
		・ブレーキドラム内にオイルが浸入	▶オイルシールを交換する（販売店へ依頼してください）

9 不具合発生時の処置

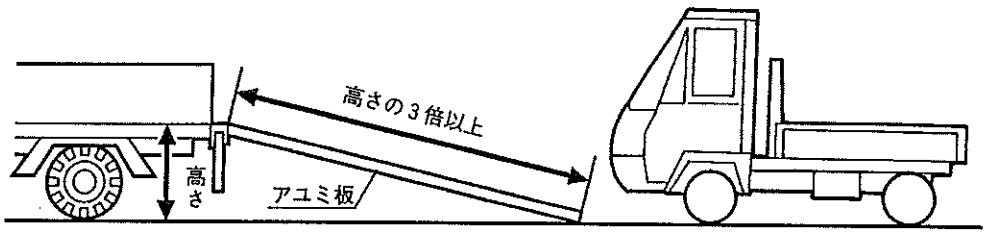
発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置
制動装置関連	効きが悪いまたは片効きする	• ブレーキドラム内に水が浸入	▶何回かブレーキをかけて中の水を乾かす
		• タイヤの摩耗	▶タイヤを交換する
		• 過積載	▶積み荷を減らす
	ブレーキペダルの遊びが過大	• 調整不良	▶調整する（☞35ページ）
	駐車ブレーキの効きが悪い	• 調整不良	▶調整する（☞35ページ）
車体関連	車体の異常振動	• タイヤ空気圧	▶タイヤの空気圧を調整する（☞35ページ）
		• タイヤ取付けボルトの緩み	▶ボルトを締める
		• ホイールベアリングの破損	▶交換する（販売店へ依頼してください）
		• タイヤの亀裂	▶交換する（販売店へ依頼してください）
安全装置関連	ライト、ランプの点灯不良	• 配線不良	▶接続する
		• 球切れ	▶交換する
		• ヒューズ切れ	▶交換する（☞36ページ）

10. 本機の移送および本機での移送

10.1 本機の移送

本製品をトラックへ積降ろしする際は、下記の手順および注意事項を遵守してください。

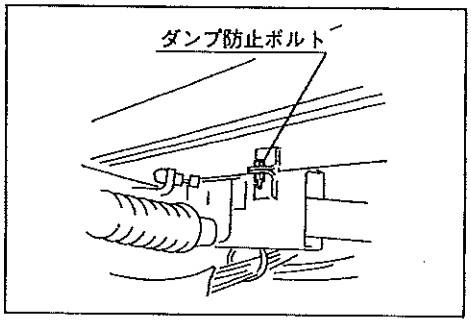
1. アユミ板は、十分な強度（機械重量および運転者の体重の総和に十分耐え得ること）、幅（タイヤの２倍以上）、長さ（トラック荷台床面の高さの３倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用し、本機の重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。



2. アユミ板のフックは、荷台に段差のないように、また、ずれないように確実に掛けてください。

⚠危　険

- **作業中は本機およびアユミ板の周辺には、人を近づけないようにしてください。**
- **変速ギヤを前・後進とも１速にし、ゆっくりと昇り降りしてください。**
- **アユミ板上での方向変換はいったん、地上に降りて行ってください。転落の危険があります。**



10.2 本機での移送

注　記

本機に小型運搬車等を積み込んで移送する場合は、ダンプ防止ボルトを取付け、荷台を必ず固定してから作業をしてください。

11. 小型特殊自動車登録申請の手引き

この車の所有者となった方は、市町村役場に届け出てナンバープレートの交付を受けなければなりません。(詳細な手続きは市町村役場窓口でお尋ねください)

＊市町村役場の登録申請書記載事項

搭載エンジン / 項目	クボタ GS230
種別用途	小型特殊自動車
車名	チクスイ ELL501
型式	チクスイ ELL501
年式	年式は購入された年を記入してください。
原動機番号	＊白札を見て記入してください。
原動機総排気量	226 cc
車台番号	＊車台番号については、車体の左フェンダ部に打刻してあります。
型式認定番号	特 452
形状	ダンパ

株式会社 筑水キャニコム

http://www.canycom.co.jp

■本社営業部 ☎0943(75)2195(代) FAX (75)4396
■貿易センター ☎03(3552)6255(代) FAX(3552)6288
■東京センター ☎03(3552)6255(代) FAX(3552)6288
■仙台センター ☎022(281)1255(代) FAX (281)3141
■埼玉センター ☎0495(77)4511(代) FAX (77)1561
■大阪センター ☎0790(42)6031(代) FAX (42)6035
■広島センター ☎0824(34)5996(代) FAX (34)5997
■福岡センター ☎0943(76)2583(代) FAX (75)5126

連絡先控え（販売店名）

本書の無断転載、複写を禁止します。